男女平等参画に関する市民意識調査
結果報告書

北広島市

～ 目 次 ～

Ⅰ. 調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅱ. 回答者の属性 ・・・・・・・・・・・・・・ 4

Ⅲ. 調査結果の内容 ・・・・・・・・・・・・・・・

（1） 男女平等について（問１～問３）・・・・・・・ 6

（2） 育児について（問４～問７） ・・・・・・・・ １２

（3） 職業について（問８～問９） ・・・・・・・ １９

（4） 人権について（問 10～問 13）・・・・・・・ ２６

（5） 男女平等参画について（問 14～問 20）・・・ ３５

（6） 男女平等参画についての意見・提案・・・・・・ ４７

Ⅳ. 資料

アンケート票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ５７

Ⅰ．調　査　の　概　要

１．調査の目的

現在の男女平等参画推進計画である「きたひろしま男女平等参画プラン」は平成 22 年度で終了のため、平成 23 年度からスタートする次期推進計画の策定にあたり、男女平等参画に関係する問題について市民の意識を把握し、参考資料として活用するため。

（平成 9 年・平成 15 年度実施調査との比較も合わせて行います。）

２．調査の内容

（１）男女平等について（男女の地位に関する意識）
（２）育児について（家庭生活における意識）
（３）職業について（女性の社会進出に関する意識）
（４）人権について（セクハラ・ＤＶ）
（５）男女平等参画について（男女平等参画社会の形成に関する意識）

３．調査方法

（１）調査対象　　市内に居住する満 20 歳以上の男女
（２）調査数　　1,000 人
（３）調査方法　　郵送による
（４）調査期間　　平成 21 年 2 月 27 日（金）～3 月 13 日（金）
（５）抽出方法　　無作為抽出

４．回収結果

（１）有効回収数

455　人（　45.5%）

調査票の回収は郵送で行い、総数で 455 通の回収がありました。
なお、無効票となる全問無記入のものはありませんでした。

（２）回収状況表

		発送数	回収数	回収率
合計数		1,000	455	45.5%
性別	男性	500	181	36.2%
	女性	500	253	50.6%
	無回答	＊＊＊＊＊	21	＊＊＊＊
年代別	20代	130	37	28.5%
	30代	184	76	41.3%
	40代	173	74	42.8%
	50代	194	89	45.9%
	60代	184	103	56.0%
	70代	89	47	52.8%
	80代以上	46	26	56.5%
	無回答	＊＊＊＊＊	3	＊＊＊＊＊
地域別	東部	254	100	39.4%
	西の里	127	61	48.0%
	大曲	271	120	44.3%
	西部	71	37	52.1%
	北広島団地	277	129	46.6%
	無回答	＊＊＊＊＊	8	＊＊＊＊＊

５．報告書の見方

回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（%）で示し、小数点第２位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならないことがあります。

回答者数の少ない設問に関しては、比率の数字が動きやすく厳密な比較をすることは難しいため、回答者の傾向をみる程度になります。

本調査では，「全国調査（国）」及び「道民意識調査（道）」、「前回・前々回調査」との比較を行っている部分があります。（調査の詳細は以下の通り。）

【全国調査】

・「男女共同参画社会に関する世論調査」
調査実施：内閣府
調査対象：全国の20 歳以上の男女5,000 人
調査時期：平成19年（2008 年）7月26 日～8月12 日
有効回答数：3,118人
有効回答率：62.4%
調査方法：調査員による個別面接聴取

【道民意識調査】

・「道民意識調査2から男女平等参画について」
調査実施：北海道知事政策部知事室広報広聴課
調査対象：道内に居住する満20 歳以上個人2,500人
調査時期：平成18年（2007年）10月
有効回答数：1,305人
有効回答率：52.2%
調査方法：郵送配布・郵送回収法

●－・－・－・－・－・－・－・－・－・－・－・－・－・－・－・－●

北広島市における調査

【前回調査】

・「男女共同参画に関する市民意識実態調査」
調査実施：北広島市
調査対象：市内に居住する満20 歳以上の男女600 人
調査時期：平成15年（2003年）6月13日～6月29日
有効回答数：223 票
有効回答率：37.2%
調査方法：郵送法

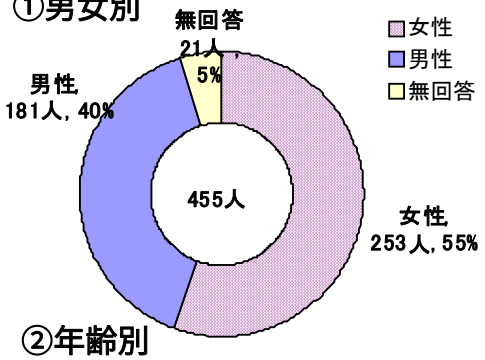
【前々回調査】

・「男女平等についての意識調査」
調査実施：北広島市
調査対象：市内に居住する満20 歳以上の男女500人
調査時期：平成9年（1997年）7月下旬～８月まで
有効回答数：251 票
有効回答率：50.2%
調査方法：郵送法

※その他各設問に関する集計結果数値詳細は、別冊「男女平等参画に関する市民意識調査集計表（北広島市平成 21 年 6 月）をご覧ください。

Ⅱ．　回答者の属性

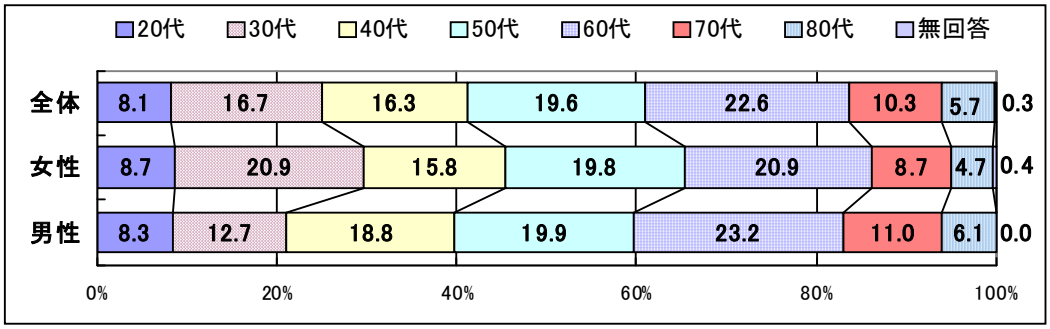
①男女別



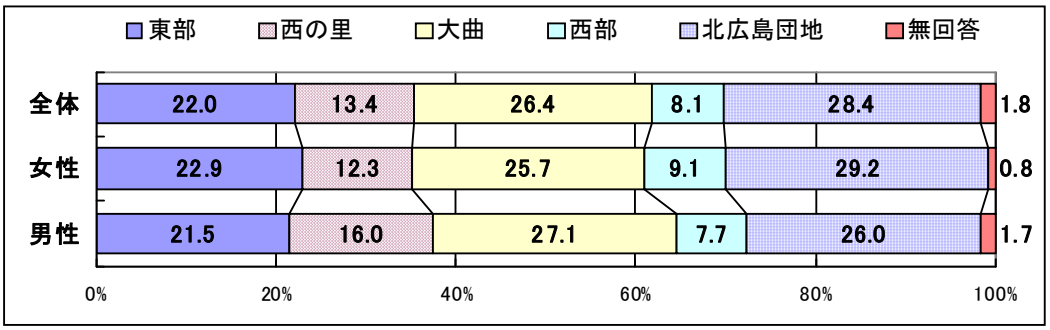
男女別の回収率では、回答者に占める女性の割合の方が男性より 15 ポイント高く、男女平等参画に関する関心の度合いが回収率にも反映していると考えられます。

②年齢別

回答者の年齢層は、50 代 60 代がやや多く、北広島市の年代構成比とほぼ同じようになっています。



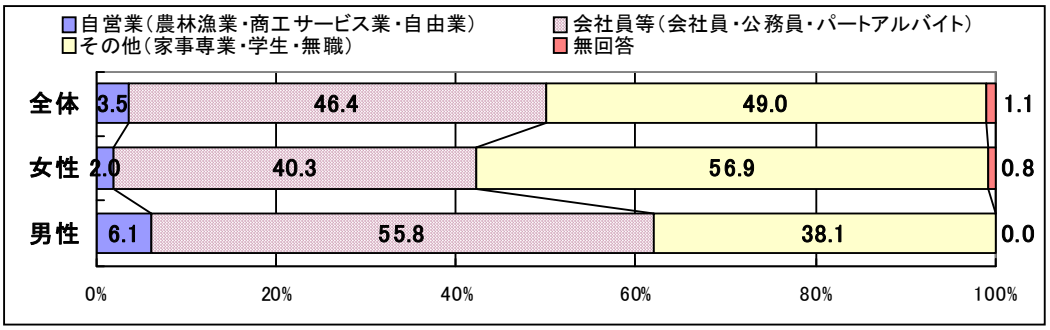
③地区別



④職業別

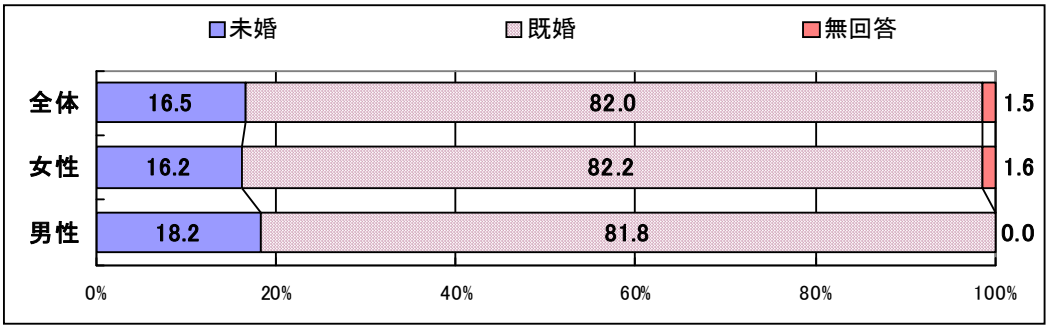
職業別では、仕事についている人（自営業・会社員等）が全体で 49.9%（女性 42.8%. 男性 61.9%）と前回調査 47.9%とほぼ同じ割合です。

その他では 49.0%のうち、家事専業が 21.5%で前回調査 24.7%より減少しています。また、女性の回答者の 3 人に 1 人（36.4%）が家事専業となっています。



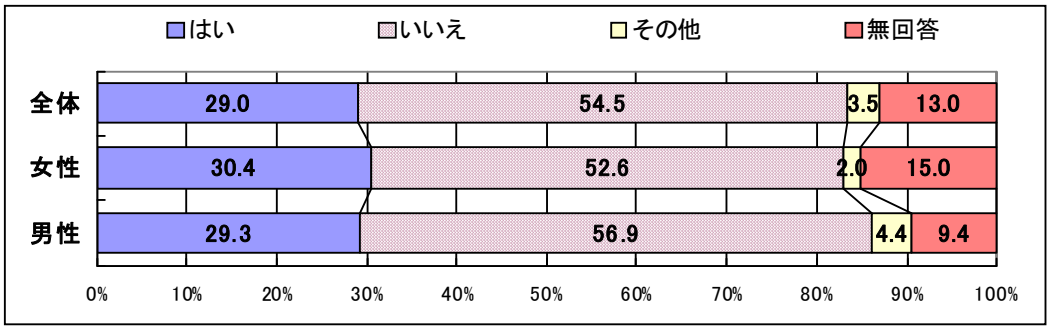
⑤既婚・未婚別

回答者の 80%以上の方が既婚者です。



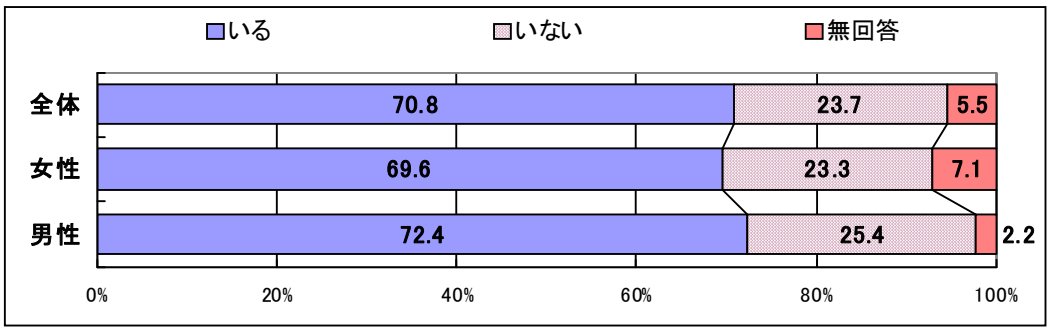
⑥共働きの状況

回答者の共働き世帯の割合は 29.0%で、前回調査の 25.2%から増加しています。



⑦子どもの有無

回答者の 70%が「子どもがいる」と答えていますが、前回調査の 76.3%から減少しています。



・・・・・・・・・・　Ⅲ．　調査結果の内容　・・・・・・・・・・

（1）　男女平等について

問１　あなたは、現在の社会で男女が平等だと思いますか。下の項目ごとに「１　男性が優遇されている、２　平等、３　女性が優遇されている、４　わからない」の中からそれぞれあてはまる番号に○印をつけてください。

１	家庭生活の中で	・・・・・・・・・・・・・・・	《　１・２・３・４　》
２	職場の中で	・・・・・・・・・・・・・・・	《　１・２・３・４　》
３	学校教育の場で	・・・・・・・・・・・・・・・	《　１・２・３・４　》
４	政治の場で	・・・・・・・・・・・・・・・	《　１・２・３・４　》
５	法律や制度上で	・・・・・・・・・・・・・・・	《　１・２・３・４　》
６	社会通念・慣習で	・・・・・・・・・・・・・・・	《　１・２・３・４　》
７	社会全体で	・・・・・・・・・・・・・・・	《　１・２・３・４　》

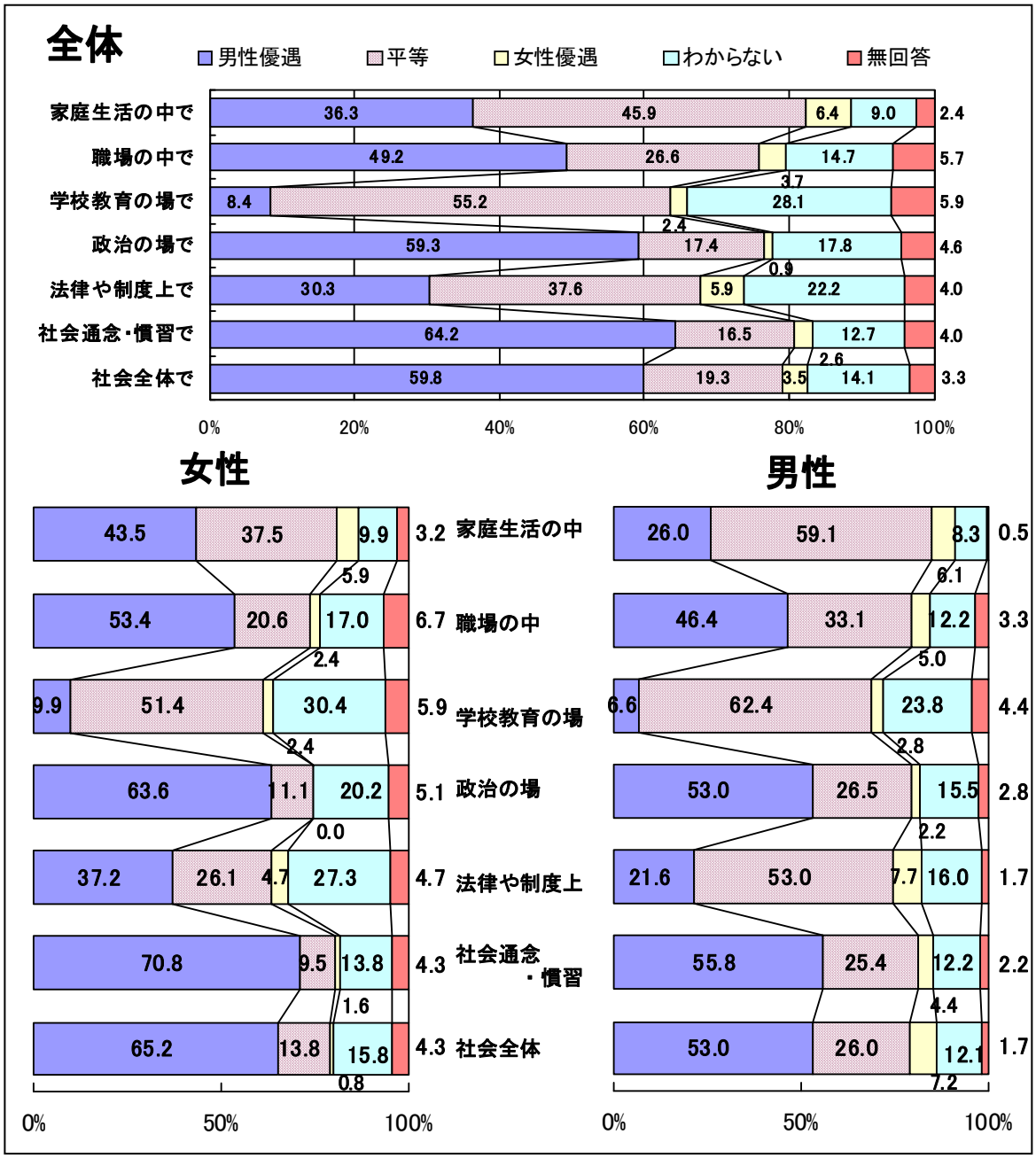
男女平等観は、前回調査と同じく「学校教育の場で」を除いた各分野で「男性が優遇」という回答が最も多くなっています。特に「社会通念・慣習で」64.2%（前回調査 73.1%）、「社会全体で」59.8%「政治の場」59.3%（前回調査 63.2%）が半数以上の割合を占め、全体的に、女性だけでなく男性も社会の中で男性が優遇されていると考えている傾向が見られます。

男女別では、男性は「社会通念・慣習で」55.8%（前回調査 63.5%）「社会全体で」53.0%「政治の場で」53.0.%(前回調査 52.9%)と 3 つの項目で半数以上の方が「男性が優遇されている」と考えていますが、女性は「社会通念・慣習で」70.8%(前回調査 79.6%)、「社会全体で」65.2%、「政治の場で」63.6%(前回調査 70.1%)の 3 つの項目で 60%以上、「職場の中で」53.4%（前回調査 54.7%）、「家庭生活の中で」43.5%（前回調査 46.7%）と2つの項目で 40%以上を占めるなど、「学校教育の場で」8.4%（男性 6.6%・女性 9.9%）を除く全ての分野で「男性が優遇されている」割合が高く、性別による感じ方の違いが顕著に現れています。

また、平等と感じる割合については、「政治の場で」17.4%(前回調査 21.1%)について、男性 26.5%（前回調査 32.9%）、女性 11.1%（前回調査 13.9%）と、ともに前回調査よりポイントが下がっています。全国的にも政治における女性議員数は少ないといわれていますが、北広島市の市議会議員の女性比率も、前回調査時 11.5%（26 人中 3 人）から 8.7%（23 人中 2 人）と下がっています。この数値は、町村議会を含む全道集計（H19 年度末）の 8.6%とほぼ同じですが、石狩管内集計の 16.6%、道内市議会の 13.2%、全国の市議会集計の 12.3%と比較すると低い方となります。「政治の場で」以外の項目の平等感は上昇しており、少しずつですが平等参画が推進されていると考えられます。

また、男性は「学校教育の場で」62.4%、「家庭生活の中で」59.1%、「法律や制度上で」53.0%の 3 項目で 50%以上の方が平等と感じていますが、女性が平等と感じているのは「学校教育の場で」51.4%1 項目のみであり、性別により平等の感じ方の度合が違うことが現れています。また、「家庭生活の中で」45.9%(全国 42.0%・北海道 28.3%)「職場の中で」26.6%(全国 23.9%・北海道 14.9%)での平等と感じる割合が、数ポイント全国や北海道との数値より高くなっています。

「社会通念・慣習で」は、16.5%と全体の中で平等と感じる割合が一番低く、特に女性では 9.5%と 1 割に届かない状況です。このことから、地域社会の中で男女の不平等が根強く残っていることがうかがえ、容易なことではありませんが、社会通念や慣習などの分野の意識改革を根気強く意識を変えていく必要があります。



▶ 平等と感じている割合（　）は前回（平成15年）調査の割合（-）は前回調査がない項目

※今回北広島市調査で割合が高い順番で記載

回答項目		国	道	北広島市		
				全体	女性	男性
1	学校教育の場で	63.4%	51.9%	55.2%（55.2%）	51.4%（48.9%）	62.4%（65.9%）
2	家庭生活の中で	42.0%	28.3%	45.9%（40.8%）	37.5%（35.0%）	59.1%（49.4%）
3	法律や制度上で	39.5%	33.1%	37.6%（31.8%）	26.1%（23.4%）	53.0%（45.9%）
4	職場の中で	23.9%	14.9%	26.6%（20.6%）	20.6%（16.8%）	33.1%（28.2%）
5	社会全体で	20.9%	19.5%	19.3%（　—　）	13.8%（　—　）	26.0%（　—　）
6	政治の場で	23.2%	17.5%	17.4%（21.1%）	11.1%（13.9%）	26.5%（32.9%）
7	社会通念・慣習で	20.2%	10.2%	16.5%（12.1%）	9.5%（ 7.3%）	25.4%（18.8%）

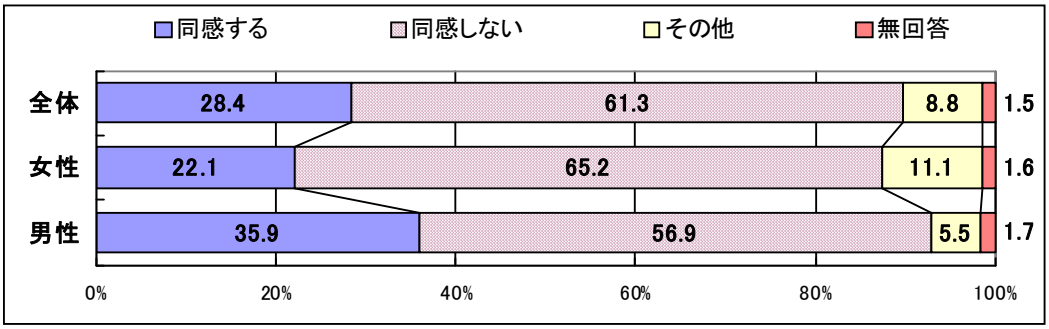
問２　あなたは「男は仕事、女は家庭」という考え方をどう思いますか。あてはまるものに○印をつけてください。

１　同感する　　２　同感しない　　３　その他（　　）

「男は仕事、女は家庭」という性別による役割分担意識について、全体で 61.3%と回答者の 6 割以上が「同感しない」と答えており、考え方を否定しています。また、女性では 65.2%と、男性の 56.9%よりも「同感しない」割合が高くなっています。

また、前回調査では、「同感しない」割合が全体で 62.8%と今回調査とあまり変わりませんが、男性が 50.6%と、今回調査の割合の方がが高くなり、女性は 70.8%で今回調査での割合が減少しており、男女差が少なくなってきています。

また北海道調査との比較では「同感する」が、北海道が 17.9%、北広島市が 28.4%と北広島市の方が高い割合となっています。



▸▸（　）は前回（平成 15 年）調査の割合

回答項目		道	北広島市		
			全体	女性	男性
同感する		17.9%	28.4%（22.9%）	22.1%（15.3%）	35.9%（34.1%）
同感しない		34.0%	61.3%（62.8%）	65.2%（70.8%）	56.9%（50.6%）
その他	どちらとも言えない	45.3%	8.8%（10.7%）	11.1%（10.2%）	5.5%（00.8%）
	わからない	1.3%			

✍その他の記載事項（33 件）

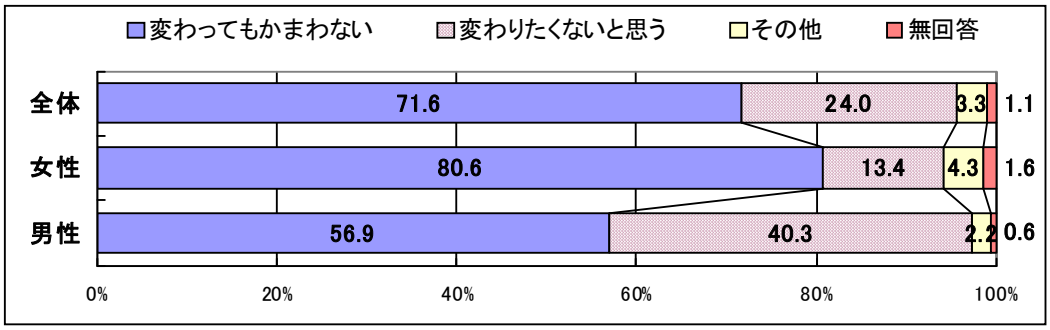
※同意見については、１つにまとめ（）に件数を掲載しています。

○単純には言い切れない。ケースバイケース　場合による　（５件）
（20 代女性．50 代女性．60 代女性．70 代女性２名）
○どちらとも言えない（40 代女性）
○固定することは難しい（70 代男性）
○人それぞれ、どちらでも良い（３件）（30 代女性２名．50 代女性）
○生活状態にもよるから、分からない（30 代男性）
○家族によって様々な状況にあるので、一概には言えないと思う（40 代男性）
○家庭での夫婦相互での問題で考えること（70 代男性）
○その家庭で違うと思う（30 代女性）
○各々の家庭で、時と場合により各々の役割をする（60 代女性）
○いろいろあると思う（50 代女性）
○個々の事情・考え方で良い（60 代女性）
○得意な方をする、特性を生かした役割分担（２件）（60 代女性．80 代女性）
○適材適所（20 代男性）
○仕事・家庭は向いている方が選択してするべき（50 代女性）
○男女とも、自分に合っている方を重視して、苦手な方を努力すれば良いと思う
（30 代女性）
○意識が変わった（80 代男性）
○気持ちは２だが、育ってきた環境が１だったので、複雑（20 代女性）
○話し合いで良い方を決める（50 代女性）
○そうできる環境なら同感（20 代女性）
○お互いのいたわりの気持ちがあれば同感する（40 代女性）
○相手が選択することは同意（60 代男性）
○女性でも才能のある人は活躍すべき（60 代男性）
○今の社会ではしかたない、しょうがないかな・・・（２件）（30 代女性．50 代女性）
○仕事も家庭も平等（40 代女性）
○子どもがいれば１（50 代女性）

問３-①　結婚すると夫婦どちらか一方の姓（名字）を名乗ることになっています。あなたは結婚により、自分の姓が変わることをどう思いますか。あてはまるものに○印をつけてください。

１　変わってもかまわない　　２　変わりたくないと思う
３　その他（　　）

「変わってもかまわない」と思う割合は全体 71.6%（前回調査 70.4%）、男性 56.9%（前回調査 54.1%）、女性 80.6%（前回調査 80.3%）と、男女共に結婚により姓が変わることにこだわらない傾向が見られますが、現実には、男性の姓に変わる女性が多い状況です。



▸▸（　）は前回（平成 15 年）調査の割合

回答項目	全体	女性	男性
変わってもかまわない	71.6%（70.4%）	80.6%（80.3%）	56.9%（54.1%）
変わりたくないと思う	24.0%（21.1%）	13.4%（ 8.0%）	40.3%（42.4%）
その他	3.3%（ 4.9%）	4.3%（ 6.6%）	2.2%（ 2.4%）
無回答	1.1%（ 3.6%）	1.6%（ 5.1%）	0.6%（ 1.2%）

その他の記載事項（13 件）

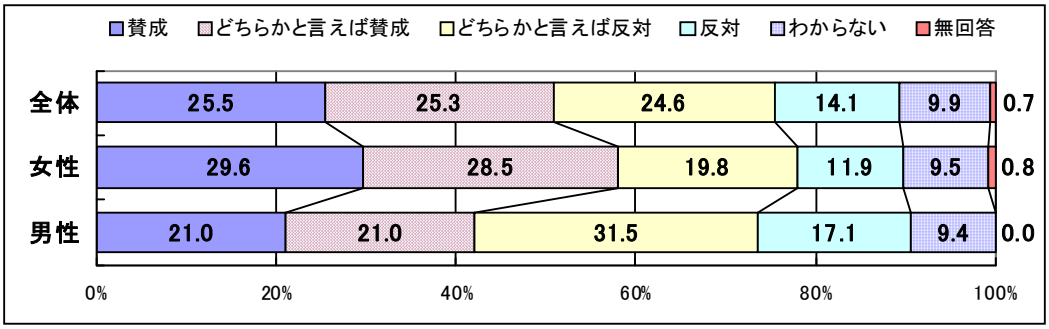
○結婚したときは変わるのに不自然さを感じなかったが、今はお互いの話し合いで決める必要（60 代女性）
○その状況による。働いていたら変わりたくないと思うかもしれない（40 代女性）
○そのときの事情にもよるが、当たり前のごとく女性の方が変わることに疑問を持っている（60 代女性）
○戸籍上変わったとしても、もし結婚前から活躍しているのであれば、通念上は旧姓を使うのは構わない（60 代女性）
○自由に選べたら良い、どちらでも選べると良いと思う（２件）（30 代男性．60 代女性）
○どちらでも良いと思う（２件）（20 代女性．30 代女性）
○最初は戸惑ったが（30 代女性）
○新しい姓を作りたい（40 代女性）
○その時でないと分からない（30 代男性）
○子ども（40 代男性）
○うれしかった（30 代女性）

問３-②　あなたは、夫婦が希望すれば、それぞれ結婚前の姓を名乗ることができる「夫婦別姓」の制度の導入に、賛成ですか、反対ですか。あてはまるものに○印をつけてください。

１　賛成　　２　どちらかと言えば賛成　　３どちらかと言えば反対
４　反対　　５　わからない

「夫婦別姓」の制度導入に「賛成」「どちらかと言えば賛成」と答えた方は、50.8%（前回調査 47.5%）で、男性では 42.0%（前回調査 37.6%）、女性では 58.1%（前回調査 53.3%）と、制度の導入については半数の方が望んでいます。

現実的にも、職場によって結婚で姓が変わっても、働く上で結婚前の姓を使う女性が少しずつ増えてきている状況があります。



▸▸（　）は前回（平成 15 年）調査の割合

回答項目	全体		女性		男性	
賛成	25.5%	(47.5%)	29.6%	(53.3%)	21.0%	(37.6%)
どちらかと言えば賛成	25.3%		28.5%		21.0%	
どちらかと言えば反対	24.6%	(42.6%)	19.8%	(35.0%)	31.5%	(55.3%)
反対	14.1%		11.9%		17.1%	
わからない	9.9%（ 6.3%）		9.5%（ 6.6%）		9.4%（ 5.9%）	
無回答	0.7%（ 3.6%）		0.8%（ 5.1%）		0.0%（ 1.2%）	

※（　）の前回調査では法の改正について「良いと思う」「そう思わない」「その他」で質問しています。

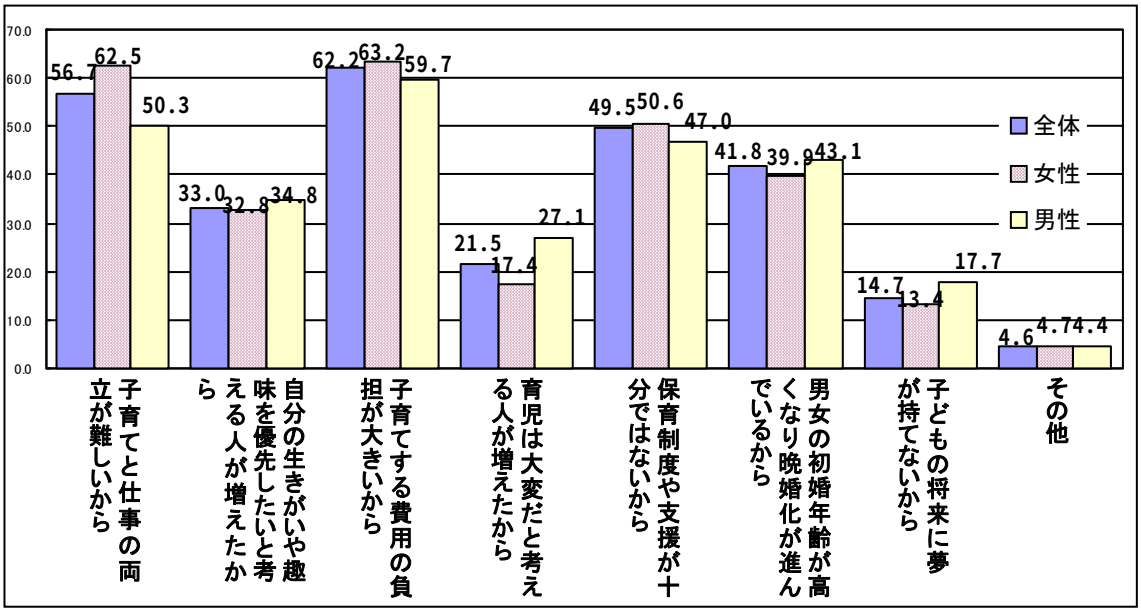
（2） 育児について

問４　あなたが「少子化」の理由と考えるものを、次の中から３つまで選んで○印をつけてください。

１　子育てと仕事の両立が難しいから
２　自分の生きがいや趣味を優先したいと考える人が増えたから
３　子育てする費用の負担が大きいから
４　育児は大変だと考える人が増えたから
５　保育制度や支援が十分ではないから
６　男女の初婚年齢が高くなり晩婚化が進んでいるから
７　子どもの将来に夢が持てないから
８　その他（　　）

少子化の理由として､｢子育てする費用の負担が大きいから｣が 62.2%(前回調査 64.1%)が最も多く、次に「子育てと仕事の両立が難しい」が 56.7%（前回調査 48.9%）と、男女共に半数以上の方が理由と考えています。次に半数近い回答者が「保育制度や支援が十分でないから」が 49.5%（前回調査 40.4%）を「少子化」の理由として上げており、性別では男性より女性の方が高いポイントを示しています。このことからは、子どもを生みたくても費用や時間の負担が大きく、子育ての支援制度が少ない現状が浮かび上がってきます。

また､世代別では､｢子育てする費用の負担が大きいから｣が 20 代 64.9%､30 代 65.2%、40 代 75.7%、50 代 65.2%、80 代以上 65.4%の 3 つの世代で最も多く、「子育てと仕事の両立が難しいから」が 60 代 55.4%と 70 代 53.2%で最も多くなっています。



▸▸選択が多かった項目順に掲載（　）は前回（平成 15 年）調査の割合

	回答項目　()は前回の順位	全体	女性	男性
1	子育てする費用の負担が大きいから（1）	62.2%（64.1%）	63.2%（62.8%）	59.7%（65.9%）
2	子育てと仕事の両立が難しいから（2）	56.7%（48.9%）	62.5%（37.2%）	50.3%（51.8%）
3	保育制度や支援が十分でないから（3）	49.5%（40.4%）	50.5%（41.6%）	47.0%（37.6%）
4	男女の初婚年齢が高くなり晩婚化が進んでいるから（5）	41.8%（32.7%）	39.9%（34.3%）	43.1%（30.6%）
5	自分の生き甲斐や趣味を優先したいと考える人が増えたから（4）	33.0%（37.2%）	32.8%（34.3%）	34.8%（42.4%）
6	育児は大変だと考える人が増えたから（6）	21.5%（30.5%）	17.4%（31.4%）	27.1%（29.4%）
7	子どもの将来に夢が持てないから（7）	14.7%（16.1%）	13.4%（17.5%）	17.7%（14.1%）
8	その他（8）	4.7%（ 5.8%）	4.7%（ 5.1%）	4.4%（ 7.1%）

その他の記載事項（19 件）

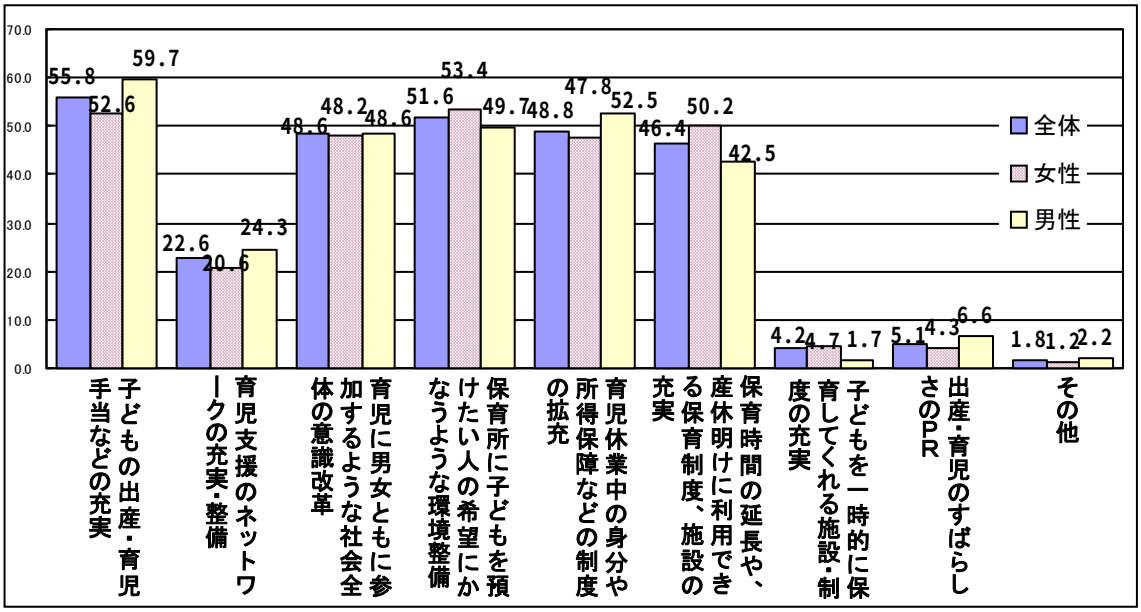
○不景気で収入が少なすぎるため（30 代男性）
○経済力（雇用不安・非正規社員の増加）により結婚したくてもできない人が多いように感じる。男性側に（30 代女性）
○出産時、お金がかかりすぎ（60 代）
○政治が悪く、安心して生むことができないから（20 代女性）
○子どもを安心して生み育てるシステムがないから（40 代男性）
○親の将来の見通しが立ちにくく、老後の計画も含め、とにかく経済的な不安が多すぎる（30 代女性）
○不妊、不妊の人が増えているから（２件）（30 代女性）
○正しく子育てができないと考える人が増えた（60 代女性）
○男性も女性も子育てを負担と思う割合が大きくなっている（50 代女性）
○自己中心の人間が増えているから（60 代女性）
○利己主義（40 代男性）
○一時期のキレる 19 歳のように子に対する不安？（40 代女性）
○核家族は増え、育児を含む主婦の負担が増えた（30 代女性）
○医療の点で安心することができない（30 代女性）
○「生かし、生かされ」の精神が失われているから（60 代男性）
○結婚する人間が少ないから（20 代男性）
○身体的なハンディ（50 代男性）
○会社での子育てへの理解力がまだ足りないと思う（30 代男性）

問５　あなたは、出産・育児の環境づくりとして、どのような施策が必要だと思いますか。次の中からあてはまるものを３つまで選んで○印をつけてください。

１　子どもの出産・育児手当などの充実
２　育児支援のネットワークの充実・整備
３　育児に男女ともに参加するような社会全体の意識改革
４　保育所に子どもを預けたい人の希望にかなうような環境整備
５　育児休業中の身分や所得保障などの制度の拡充
６　保育時間の延長や、産休明けに利用できる保育制度・施設の充実
７　ボランティア活動や生涯学習、冠婚葬祭、療養などのときに、子どもを一時的に保育してくれる施設・制度の充実
８　出産・育児の楽しさや、すばらしさのＰＲ
９　その他（　　）

出産・育児の環境づくりに必要な施策としては、「子どもの出産・育児手当などの充実」が 55.7%（前回調査 47.5%）と一番答えた方が多く、次に多いのが「保育所に子どもを預けたい人の希望にかなうような環境整備」が 51.6%（前回調査 42.6%）、「育児休業中の身分や所得保障などの制度の拡充」が 48.8%（前回調査 41.3%）と、以上の３項目が上位を占めています。また、前回調査で最も多かった「育児に男女ともに参加するような社会全体の意識改革」は 48.6%（前回調査 49.8%）と、前回調査よりも減っています。このことから問４（少子化の理由）と同じく、意識改革よりも、育児手当等経済的な負担軽減や保育所整備等の子育て環境の整備を望んでいることがうかがえます。

また、性別で見ると女性では「保育所に子どもを預けたい人の希望にかなうような環境整備」53.4%（前回調査 40.1%）が、男性では「育児休業中の身分や所得保障などの制度の拡充」を 52.5%（前回調査 50.6%）が最も多く、性別による違いが表れています。



▸▸選択が多かった項目順に掲載（　）は前回（平成 15 年）調査の割合

	回答項目　()は前回の順位	全体	女性	男性
1	子どもの出産・育児手当などの充実（2）	55.8%（47.5%）	52.6%（41.6%）	50.3%（57.6%）
2	保育所に子どもを預けたい人の希望にかなうような環境整備（3）	51.6%（42.6%）	53.4%（40.1%）	49.7%（45.9%）
3	育児休業中の身分や所得保障などの制度の拡充（4）	48.8%（41.3%）	47.8%（35.0%）	52.5%（50.6%）
4	育児に男女ともに参加するような社会全体の意識改革（1）	48.6%（49.8%）	48.5%（52.6%）	48.6%（45.9%）
5	保育時間の延長や、産休明けに利用できる保育制度・施設の充実（6）	46.4%（22.4%）	50.2%（25.5%）	42.5%（17.6%）
6	育児支援のネットワークの充実・整備（5）	22.6%（23.3%）	20.6%（25.5%）	24.3%（18.8%）
7	出産・育児の楽しさや、すばらしさのＰＲ（7）	5.1%（21.5%）	4.3%（19.0%）	6.6%（25.9%）
8	ボランティア活動や生涯学習、冠婚葬祭、療養などのときに、子どもを一時的に保育してくれる施設・制度の充実（8）	4.2%（17.9%）	4.7%（21.2%）	1.7%（12.9%）
9	その他（9）	1.8%（ 2.2%）	1.2%（ 2.9%）	2.2%（ 1.2%）

その他の記載事（６件）

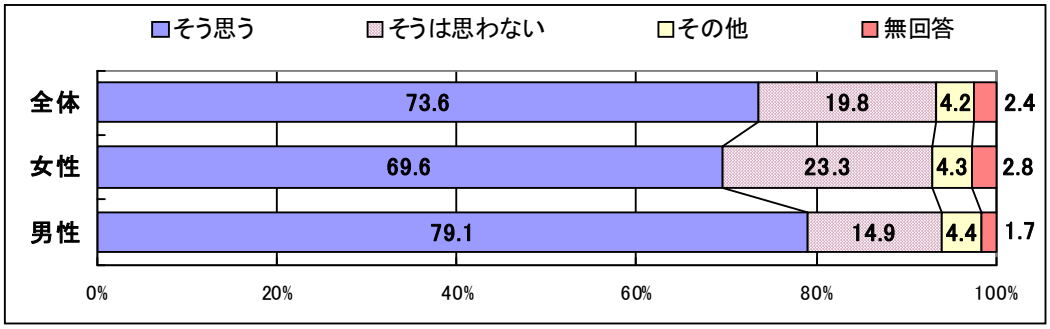
○産院の充実と配置（50 代男性）
○産科等医療機関の充実（50 代男性）
○次代を考えることの欠如を是正する（60 代男性）
○親が自分をどう育ててくれたのか思う心を持ってもらいたい（60 代女性）
○小さな子どもばかりでなく、その後中学生になった時の金銭的援助（40 代女性）
○事業所ごとにネットワークがあると良い。出生より前３ヶ月精算して２年の間月５万円位の援助があれば良いのでは　主婦の食費と年金の分（60 代女性）

問６　あなたは、「母親が子どもを３歳くらいまでは家庭で育てた方がよい」という考え方をどう思いますか。あてはまるものに○印をつけてください。

１　そう思う　　２　そうは思わない　　３　その他（　　）

母親が子どもを３歳くらいまでは育てたほうがよいと思う割合は、「そう思う」が 73.6%（前回調査 73.5%）と最も多く、前回調査とほぼ同様の結果です。

男女別では、女性より男性の割合が高くなってはいますが、性別、世代を問わず、子育ては母親である女性の役割と考える人が多いことがうかがえます。



▶▶（　）は前回（平成 15 年）調査の割合

回答項目	全体	女性	男性
そう思う	73.6%（73.5%）	69.6%（69.3%）	79.1%（80.0%）
そうは思わない	19.8%（19.7%）	23.3%（23.4%）	14.9%（14.1%）
その他	4.2%（ 5.8%）	4.3%（ 6.6%）	4.4%（ 4.7%）
無回答	2.4%（ 0.9%）	2.8%（ 0.7%）	1.7%（ 1.2%）

その他の記載事項（16 件）

○個々の考え方で良いと思う（60 代女性）
○人それぞれで良い（30 代女性）
○状況による（50 代女性）
○環境によるので、どちらとも言えない（20 代男性）
○両親が３歳位までは見た方が良いと思う（20 代男性）
○両親協力して３歳まで（60 代男性）
○家庭で育てなければ、どこで育てるのか？（40 代男性）
○３歳以上でも（70 代男性）
○小学校位までは母親が家庭で（30 代男性）
○ずっとそばにいて（30 代女性）
○育休取得可能期間によると思う（20 代女性）
○それは理想だが、現実に、母親が働かなければならない生活の実態があると思う（30 代女性）
○その考え方を実現できる社会の実現（50 代男性）
○父親でも良い（50 代女性）
○母親の考えにあった制度（50 代男性）
○「三つ子の魂 100 まで」のように、自流な保育施設に預かってもらえると良いと思う（60 代女性）

問７　あなたは、子どもの育て方について、「男らしく」「女らしく」と区別することについてどう思いますか。あてはまるものに○印をつけてください。

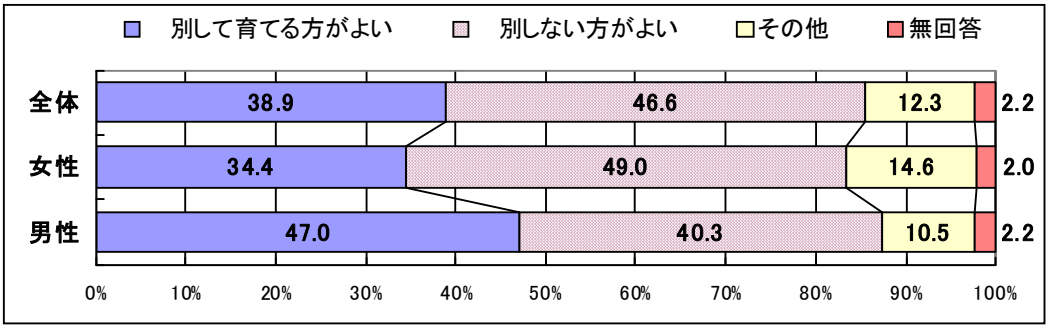
１　区別して育てる方がよい　　２　区別しない方がよい

３　その他（　　）

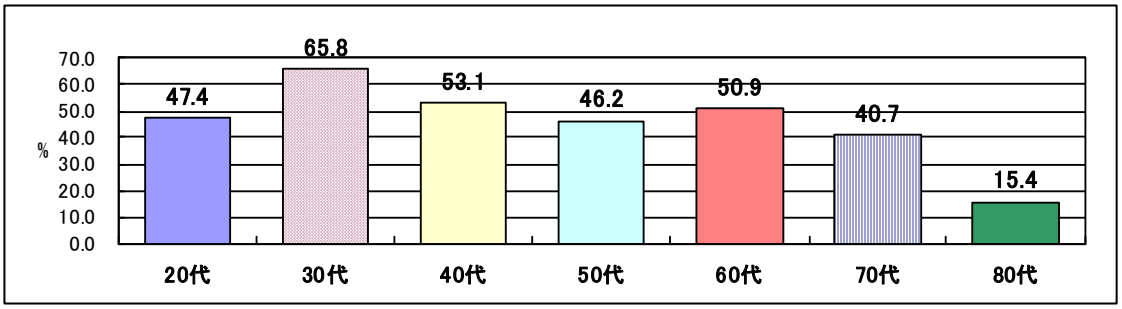
子どもを「男らしく」「女らしく」と区別する事について、「区別しない方がよい」が 46.6%（前回調査 45.9%）で、「区別して育てるほうがよい」の 38.9%（前回調査 36.3%）を上回っています。

また、男性では、「区別して育てる方がよい」の方が 47.0%（前回調査 45.9%）と「区別して育てるほうがよい」の 40.3%（前回調査 45.9%）より多く、女性では、逆に「区別しない方が良い」が 49.0%（前回調査 54.7%）が「区別して育てるほうがよい」の 34.4%（前回調査 29.9%）を上回っており、性別により意識の差が見られますが、前回調査よりその差は少なくなってきています。

世代別では、「区別しない方がよい」の割合が、現在子育て中の世代と思われる 30 代で 65.8%、40 代で 53.1%と高くなっています。



▸▸世代別の「区別しない方がよい」と思う割合



▸▸（　）は前回（平成 15 年）調査の割合

回答項目	全体	女性	男性
区別しない方がよい	46.6%（51.1%）	49.0%（54.7%）	40.3%（45.9%）
区別して育てる方がよい	38.9%（36.3%）	34.4%（29.9%）	47.0%（45.9%）
その他	12.3%（11.7%）	14.6%（14.6%）	10.5%（ 7.1%）
無回答	2.2%（ 0.9%）	2.0%（ 0.7%）	2.2%（ 1.2%）

✍その他の記載事項（52 件）

○一概にいえない。場合によると思う（60 代女性）
○物事によって区別（40 代女性）
○年齢～時と場合による、ケースバイケース　（２件）（30 代女性）（40 代女性）
○ケースバイケースだと思うので、全部ではなく、必要に応じて「男らしさ」「女らしさ」それぞれを教える必要がある（30 代女性）
○状況によっては区別することも必要（２件）（30 代女性）（60 代男性）
○区別する部分と区別しない部分があっていいと思う（40 代女性）
○必要時に応じて、男は男だし、女は女だから（40 代男性）
○性差はあるので、事によりけりと思う（60 代女性）
○どちらとも言えない（２件）（20 代男性）(80 代男性)
○ある程度必要、必要と思う（３件）（30 代女性）（60 代女性）（60 代男性）
○特に意識する必要はないが、ある程度はあってもいいと思う(30 代女性)
○ある程度は男らしさ、女らしさを求めても良いと思う（40 代女性）
○女らしさを失わないように、男は男らしくがある程度必要（70 代女性）
○「らしく」も必要（60 代女性）
○その子らしく、必要であれば男らしく、女らしく（50 代男性）
○子どもによって違うと思うので、その子らしく（40 代女性）
○全く区別しないというのは、あまり賛成しないが、区別して育てるというのも疑問（60 代男性）
○子供らしく(30 代男性)
○ある程度の年齢までは区別しない方が良いと思う（30 代男性）
○小さい子どもは、別に区別する必要はないと思う。その子の個性だと思うからです。小学校高学年位からは、必要だと思います（30 代女性）
○性別ではなく、「人として」あるべき他者を思いやり、自立した人として育てるということに着目すべきように思う（40 代男性）
○２に近いが、男性は「女らしい」、女性は「男らしい」人を求めているのでは？（50 代女性）
○全てを区別するとかしないとかではなく、その時の状況により区別する場合もある（50 代女性）
○「男」、「女」が全て平等でないことが沢山あり、それを教えると良い（60 代女性）
○性同一性障害の事などもあり(50 代男性)
○区別ではなく（40 代女性）
○区別も必要であるし、場合によっては「人」としての時もある(60 代女性)
○区別とは言わず、人間として別であることが大切(50 代女性)
○性別より「人間」として・・・を重視したい（40 代女性）
○人間として、人間らしく（50 代女性）（70 代男性）
○性別問わず「自分らしく」(30 代女性)
○「区別」という言葉に当てはまらない（40 代男性）
○特に意識せず、自然に育てる（60 代女性）
○自然でいい（50 代女性）
○自然な形でそうすべきで、必ずしも強制すべきでない（30 代女性）
○別にどちらでも良い（20 代女性）
○こだわらない(70 代女性)
○する必要なし同等(50 代女性)
○親が男らしく、女らしくあればどちらでも良い(40 代女性)
○昔は１であったかもしれませんが、現代は２の方と言えるかも（70 代女性）
○「らしく」ではなくて違いのみは、教えた方が良い（60 代女性）
○人格を育てる教育と生物学的教育は別であると思う（50 代男性）
○男性、女性としての性別を意識して育てる必要がある（60 代男性）
○男らしさ、女らしさは大切だが、定義の内容が偏見に満ちているのが問題（20 代女性）
○「らしさ」の概念がコントロールされている気がする（50 代男性）
○問い自体、論外！（50 代男性）

（３） 職業について

問８　あなたは、女性が職業を持つことについてどう思いますか。次の中からあてはまるものに○印をつけてください。

１　結婚や出産にかかわりなく働きつづける方がよい
２　子どもができるまで働き、子育てが終わると再び働く方がよい
３　子どもができるまで働き、子どもができた後は家庭に入る方がよい
４　結婚するまでは働き、結婚した後は家庭に入る方がよい
５　女性は職業を持たない方がよい
６　その他（　　）

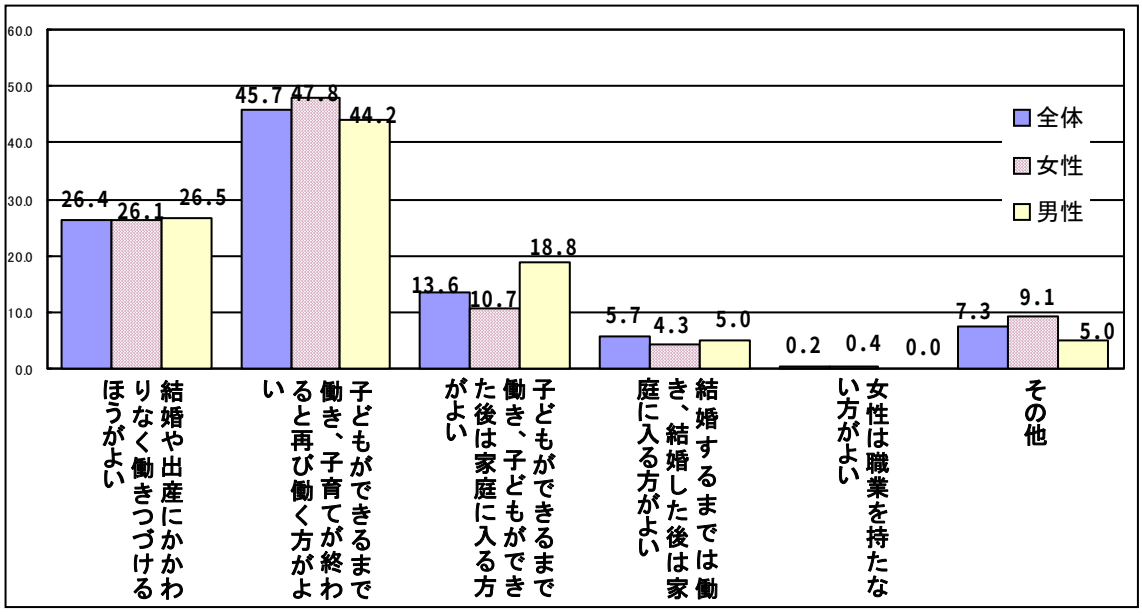
女性が職業を持つことについて、「子どもができるまで働き、子育てが終わると再び働く方がよい」と回答した方の割合が 45.7%（前回調査 46.6%前々回調査 53.0%）と最も高くなっています。次に「結婚や出産にかかわりなく働き続ける方がよい」と回答した方の割合が 26.4%（前回調査 26.0%前々回調査 16.3%）となっています。

全国調査では、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」が 43.4%と最も高い割合で、次に「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」とした割合が 33.0%と、北広島市や北海道調査とは逆になっています。

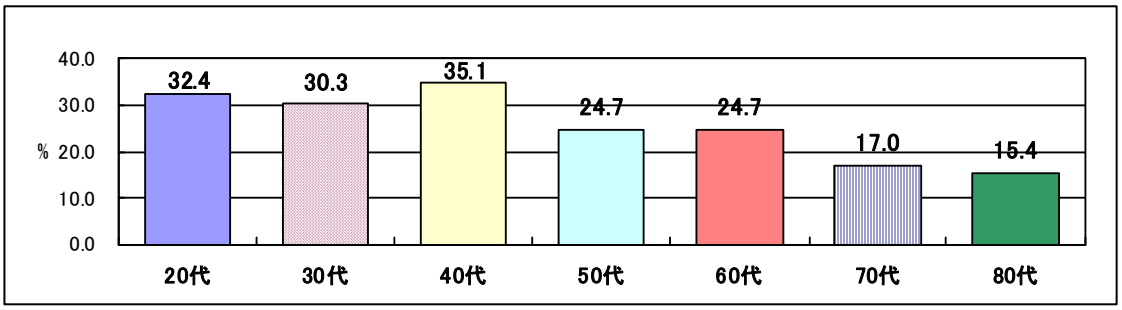
なお、「女性は職業を持たない方がよい」とした回答者の割合は 0.2%（前回調査 0.9%前々回調査 1.2%）と低くなっています。

また、性別による考え方に差は見られませんが、世代別に見ると、「結婚や出産に関わりなく働き続ける方がよい」が 40 代で 35.1%、20 代で 32.4%、30 代 30.3%と高く、50 代からは年代が高くなるとともにその割合が低くなっていきます。

未婚と既婚では、未婚者では働き続ける割合が既婚者の 24.1%と比較して 38.7%と高くなっています。



▸▸世代別の「結婚や出産にかかわりなく働きつづける方がよい」と思う割合



▸▸選択が多かった項目順に掲載（（）は前回（平成 15 年）前々回（平成 9 年）調査の割合）

回答項目　()は前回の順位		国	道	北広島市		
				全体	女性	男性
1	子どもができるまで働き、子育てが終わると再び働く方がよい(1)	33.0%	47.7%	45.7%	47.8%	44.2%
				(H15 調査 46.6%)	(46.0%)	(48.2%)
				(H9 調査 53.0%)	(58.7%)	(46.0%)
2	結婚や出産に関わりなく働きつづける方がよい(2)	43.4% (40.4%)	23.9%	26.4%	26.1%	26.5%
				(H15 調査 26.0%)	(30.7%)	(18.8%)
				(H9 調査 16.3%)	(14.5%)	(18.6%)
3	子どもができるまで働き、子どもができた後は家庭に入る方がよい(4)	10.7%	8.0%	13.6%	10.7%	18.8%
				(H15 調査 9.0%)	(7.3%)	(10.6%)
				(H9 調査 9.2%)	(5.8%)	(13.3%)
4	その他(3)	1.4%	6.4%	7.3%	9.1%	5.0%
				(H15 調査 9.4%)	(10.9%)	(7.1%)
				(H9 調査 8.0%)	(10.9%)	(4.4%)
5	結婚するまでは働き、結婚した後は家庭に入る方がよい(5)	5.5%	6.0%	5.7%	4.3%	5.0%
				(H15 調査 7.6%)	(4.4%)	(12.9%)
				(H9 調査 4.8%)	(0.7%)	(9.7%)
6	女性は職業を持たない方がよい(6)	3.6%	1.5%	0.2%	0.4%	0.0%
				(H15 調査 0.9%)	(0.0%)	(2.35%)
				(H9 調査 1.2%)	(1.5%)	(0.9%)
7	無回答(7)	2.3%	3.4%	1.1%	1.6%	0.6%
				(H15 調査 0.4%)	(0.7%)	(0.0%)
				(H9 調査 2.4%)	(2.2%)	(2.7%)

✍その他の記載事項（32 件）

○人それぞれ、周りがとやかく言うことではない（70 代女性）
○個人の自由、それぞれの自由、本人の自由（３件）（40 代女性 2 名）（40 代）
○性に関係なく個々の問題だと思う（50 代男性）
○個々の判断に任せる（20 代女性）
○人それぞれのやり方でよいと思う（２件）（20 代女性）（30 代女性）
○その時の状況に応じて（20 代女性）
○個人の考え方があるので分からない（30 代女性）
○人それぞれの状況があるのでどれでも良いと思います（30 代女性）
○その人の意思が尊重されるのであればどれでも良い（30 代女性）
○意思を尊重（20 代男性）
○本人の意思で働ける方が良い（50 代男性）
○結婚、出産に関係なく、働きたい気持ちがあれば働く（30 代女性）
○人それぞれ違う。自分で選んで（40 代女性）
○上記以外に子育て中でも､過程の事情で働かざるを得ない人もいるようです(30 代女性)
○しかし、子供が小学高学年以上になった時は、学校が終わって帰ってくる頃にいられるような仕事があれば最高だと思う（60 代女性）
○自分が本当にやりがいのあるなら続ける方が良いが、結婚したから、出産したからは関係ないと思う(30 代女性)
○子を出産しても働きたい時に働きたいが、子を持ち働く条件に合う職場がない（40 代女性）
○個人の意思にもよるが、結婚・出産を理由に仕事をしたいのにできないのはおかしい（30 代女性）
○女性が結婚、出産に関係なく、できる限り仕事も子育ても両立できる環境（50 代男性）
○１～５のように決め付けない方が良い。それぞれの能力によるものである（60 代女性）
○働きたくとも、夫の協力が得られないとムリ（60 代女性）
○家庭によって色々だと思う。特に給料の面で（50 代男性）
○自分の仕事に生き甲斐を持っている人であれば働き続けてほしい(50 代女性)
○産休が長い程度で良いと思う（50 代女性）
○２には近いが生活状況によっては決められない（40 代女性）
○色々な女性がいてこそ社会だと思う（50 代女性）
○夫婦で相談すれば良い（20 代女性）
○生活状態で判断すれば良いのでは・・・社会とは関わった方が良い（30 代女性）
○その家庭の環境、その他を総合して判断すべし（80 代男性）

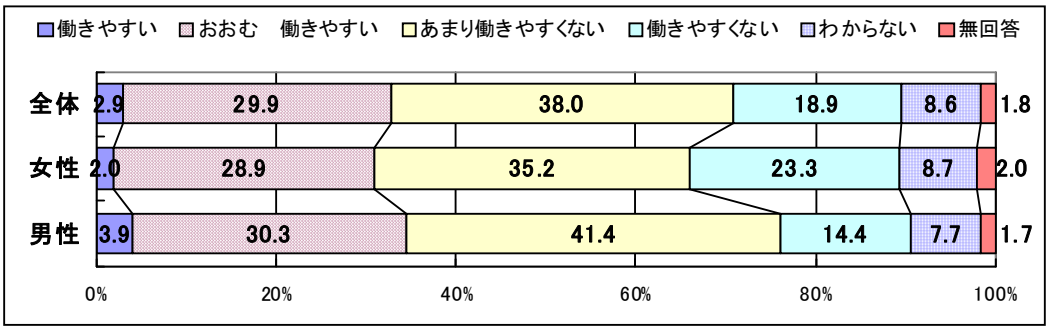
問９-①　あなたは、今の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。
次の中からあてはまるものに○印をつけてください。

１　働きやすい　　２　おおむね働きやすい　　３　あまり働きやすくない
４　働きやすくない　　５　わからない

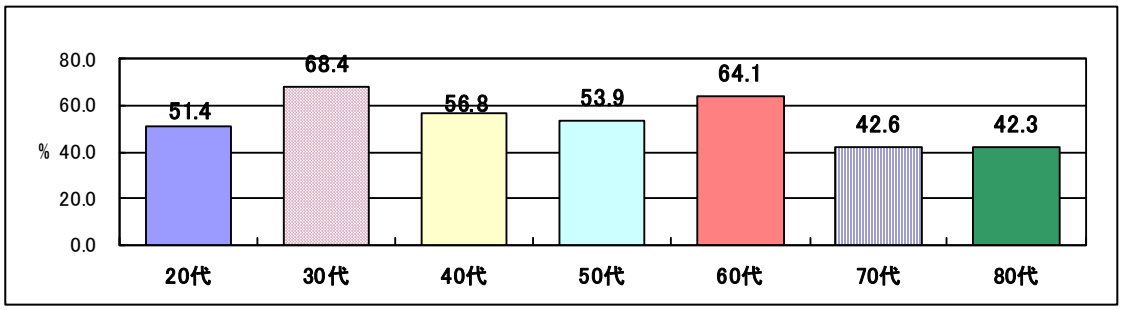
※１・２・５に○印の方は⇒問 10 へ
※３・４に○印の方は　　⇒問９-②へ

女性が「あまり働きやすくない」「働きやすくない」と思う割合を合わせると 56.9%(前回調査 61.0%、前々回調査 59.0%)と半数を超えていますが、前回調査よりその割合が多少下がっています。特に女性では 58.5%（前回調査 65.7%、前々回調査 59.4%）となっていますが、逆に男性では 55.8%（前回調査 54.1%前々回調査 58.5%）とその割合は前回より多少上がっています。

また、世代別では、「あまり働きやすくない」「働きやすくない」と答えた方の割合は、30 代が最も多く 68.4%、続いて 60 代 64.1%、40 代 56.8%、50 代 53.9%、20 代 51.4%、70 代 42.6%、80 代 42.3%となっています。



▶▶世代別の女性が働きやすくない（『あまり働きやすくない』を含む）と思う割合



▶▶（）は前回（平成 15 年）前々回（平成 9 年）調査の割合

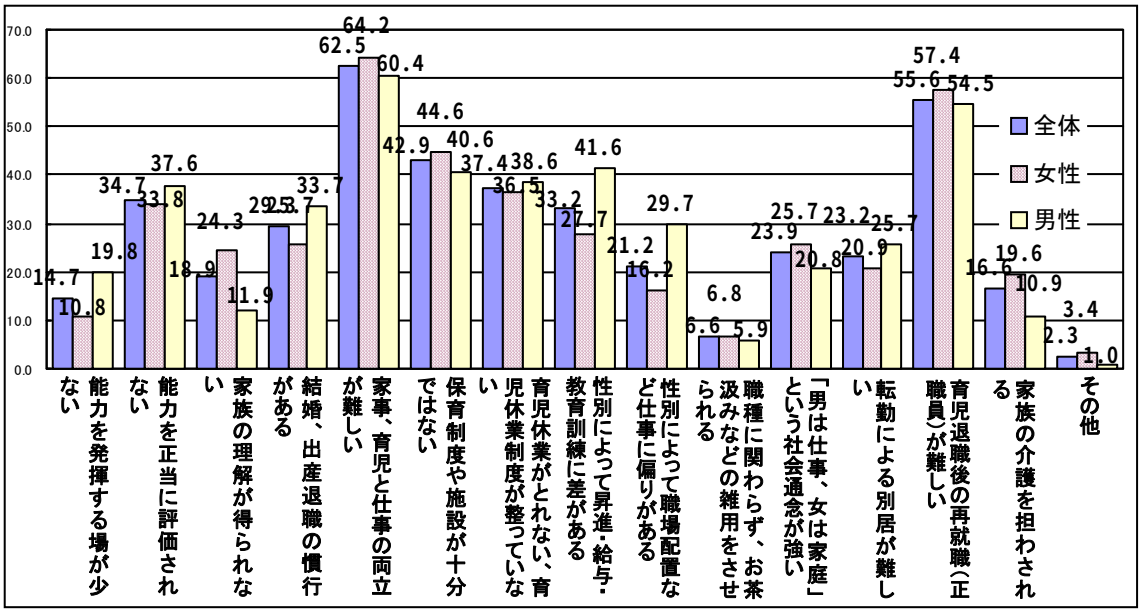
回答項目	全体	女性	男性
働きやすい	2.9%	2.0%	3.9%
	（H15 調査　2.2%）	（ 2.2%）	（ 2.4%）
	（ H9 調査　2.0%）	（ 2.9%）	（ 0.9%）
おおむね働きやすい	29.9%	28.9%	30.9%
	（H15 調査　30.0%）	（24.1%）	（40.0%）
	（ H9 調査　20.3%）	（20.3%）	（31.0%）
あまり働きやすくない	38.0%	35.2%	41.4%
	（H15 調査　41.7%）	（40.9%）	（43.5%）
	（ H9 調査　46.6%）	（44.2%）	（49.6%）
働きやすくない	18.9%	23.3%	14.4%
	（H15 調査　19.3%）	（24.8%）	（10.6%）
	（ H9 調査　12.4%）	（15.2%）	（ 8.9%）
わからない	8.6%	8.7%	7.7%
	（H15 調査　6.3%）	（ 7.3%）	（ 3.5%）
	（ H9 調査 10.6%）	（13.8%）	（ 6.2%）
無回答	1.8%	2.0%	1.7%
	（H15 調査　0.4%）	（ 0.7%）	（ 0.0%）
	（ H9 調査　3.6%）	（ 3.6%）	（ 3.5%）

問９-②　問９-①で３，４を選んだ方にお聞きします。女性が「働きやすくない」大きな原因と思うものを、次の中から５つまで選んで○印をつけてください。

１　能力を発揮する場が少ない
２　能力を正当に評価されない
３　家族の理解が得られない
４　結婚、出産退職の慣行がある
５　家事・育児と仕事の両立が難しい
６　保育制度や施設が十分ではない
７　育児休業がとれない、育児休業制度が整っていない
８　性別によって昇進・給与・教育訓練に差がある
９　性別によって職場配置など仕事に偏りがある
10　職種には関わらず、お茶汲みなどの雑用をさせられる
11　「男は仕事、女は家庭」という社会通念が強い
12　転勤による別居が難しい
13　育児退職後の再就職（正職員）が難しい
14　家族の介護を担わされる
15　その他（　　）

問９-①で女性が「あまり働きやすくない」「働きやすくない」と答えた方 56.9%（259人）の中で、「家事・育児と仕事の両立が難しい」ためと答えた方が 62.5%（前回調査 70.6%）と最も多く、次に「育児退職後の再就職（正職員）が難しい」が 55.6%（前回調査 52.9%）と、以上２つの項目で半数以上の人が回答しています。

回答数の多い上位 3 位までは、ポイントは減少しているものの順位に変動はありませんでしたが、「『男は仕事、女は家庭』という社会通念が強い」が 23.9%（前回調査 34.6%）で 4 位から 8 位、「結婚、出産退職の慣行がある」が 29.7%（前回調査 33.1%）で 5 位から 7 位、「能力を発揮する場が少ない」が 14.7%（前回調査 21.3%）で 9 位から 13 位へと順位を下げています。



⏩選択が多かった項目順に掲載⏩（　）は前回（平成 15 年）調査の割合

回答項目　()は前回の順位		全体	女性	男性
1	家事・育児と仕事の両立が難しい(1)	62.5%（70.6%）	64.2%（74.4%）	60.4%（63.0%）
2	育児退職後の再就職（正職員）が難しい(2)	55.6%（52.9%）	57.4%（60.0%）	54.5%（39.1%）
3	保育制度や施設が十分ではない(3)	42.9%（44.9%）	44.6%（40.0%）	40.6%（54.3%）
4	育児休業がとれない、育児休業制度が整っていない(5)	37.5%（33.1%）	36.5%（33.3%）	38.6%（32.6%）
5	能力を正当に評価されない(7)	34.7%（32.4%）	33.8%（27.8%）	37.6%（41.3%）
6	性別によって昇進・給与・教育訓練に差がある(8)	33.2%（31.6%）	27.7%（32.2%）	41.6%（30.4%）
7	結婚、出産退職の慣行がある(5)	29.7%（33.1%）	25.7%（28.9%）	33.7%（41.3%）
8	「男は仕事、女は家庭」という社会通念が強い(4)	23.9%（34.6%）	25.7%（34.4%）	20.8%（34.8%）
9	転勤による別居が難しい(12)	23.2%（19.1%）	20.9%（17.8%）	25.7%（21.7%）
10	性別によって職場配置など仕事に偏りがある(11)	21.2%（19.9%）	16.2%（17.8%）	29.7%（23.9%）
11	家族の理解が得られない(10)	18.9%（20.6%）	24.3%（24.4%）	11.9%（13.0%）
12	家族の介護を担わされる(13)	16.6%（16.9%）	19.6%（20.0%）	10.9%（10.9%）
13	能力を発揮する場が少ない(9)	14.7%（21.3%）	10.8%（18.9%）	19.8%（26.1%）
14	職種には関わらず、お茶汲みなどの雑用をさせられる(14)	6.6%（10.3%）	6.8%（15.6%）	5.9%（ 0.0%）
15	その他(15)	2.3%（ 2.2%）	3.4%（ 1.1%）	1.0%（ 4.3%）

✍その他の記載事項（９件）

○子育てに漠然とした教育費等にかかる不安が大きい。格差社会などと言って、貧乏人は一生、その子供も貧乏人。少子化の時代、点取りだけの受験制度をなくしてもらいたい（30 代女性）
○ＩＴの時代になり職場に帰ると新人並みの「特練」をしなければならない（60 代女性）
○職名の人間関係（40 代女性）
○子供がいると働く時間が制約される（40 代女性）
○夫婦で自分流の生活方式を確立し、生活をする（60 代男性）
○女性は単純でしやすい仕事を求め、仕事の格差が生じている(60 代男性)
○社会全体が男性と同じ時間まで働かせられる状況にしていない（20 代男性）
○扶養控除等税金の関係の不備（40 代女性）
○育児が終わる頃には、年齢が高くなり、職につきにくい（20 代女性）

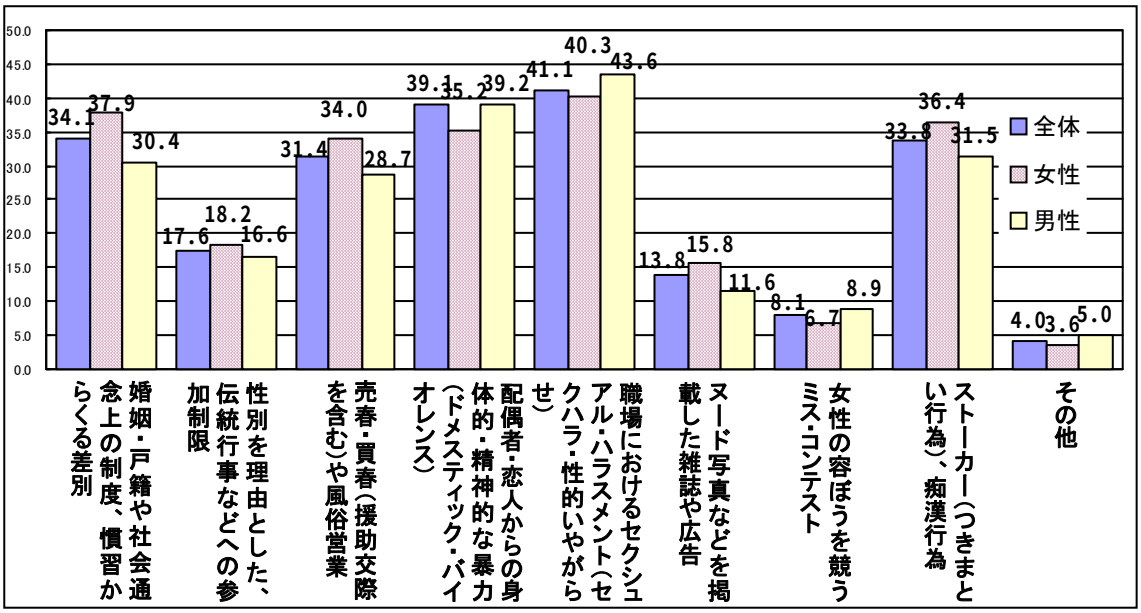
（４） 人権について

問10　あなたが、「人権が尊重されていない」と感じるのはどのようなことがらですか。次の中からあてはまるものを３つまで選んで○印をつけてください。

１　婚姻・戸籍や社会通念上の制度、慣習からくる差別
２　性別を理由とした、伝統行事などへの参加制限
３　売春・買春（援助交際を含む）や風俗営業
４　配偶者・恋人からの身体的・精神的な暴力（ドメスティック・バイオレンス）
５　職場におけるセクシュアル・ハラスメント（セクハラ・性的いやがらせ）
６　ヌード写真などを掲載した雑誌や広告
７　女性の容ぼうを競うミス・コンテスト
８　ストーカー（つきまとい行為）、痴漢行為
９　その他（　　）

「職場におけるセクシュアル・ハラスメント（セクハラ・性的いやがらせ）」41.1%（前回調査 35.4%）が最も多く、次に「配偶者・恋人からの身体的・精神的な暴力（ドメスティック・バイオレンス）」39.1%（前回調査 25.1%）と、前回調査に比べ高いポイントとなっています。続いて「婚姻・戸籍や社会通念上の制度、慣習からくる差別」が 34.1%（前回調査 48.0%）となっていますが、前回調査の１位から順位を下げています。

このことから配偶者暴力防止法改正や男女雇用機会均等法改正（セクハラに関する法整備）等により、ＤＶ被害やセクハラ被害の内容が一般的にも少しずつ知られるようになってきたことがうかがえます。



⏩選択が多かった項目順に掲載（　）は前回（平成 15 年）調査の割合

回答項目　()は前回の順位		全体	女性	男性
1	職場におけるセクシュアル・ハラスメント（セクハラ・性的いやがらせ）（3）	41.1%（35.4%）	40.3%（33.6%）	43.6%（38.8%）
2	配偶者・恋人からの身体的・精神的な暴力（ドメスティック・バイオレンス）（6）	39.1%（25.1%）	35.2%（24.8%）	39.2%（25.9%）
3	婚姻・戸籍や社会通念上の制度、慣習からくる差別（1）	34.1%（48.0%）	37.9%（44.5%）	30.4%（54.1%）
4	ストーカー（つきまとい行為）、痴漢行為（2）	33.8%（36.3%）	36.4%（38.0%）	31.5%（32.9%）
5	売春・買春（援助交際を含む）や風俗営業（5）	31.4%（30.4%）	34.0%（28.5%）	28.7%（31.8%）
6	性別を理由とした、伝統行事などへの参加制限（4）	17.6%（33.2%）	18.2%（31.4%）	16.6%（36.5%）
7	ヌード写真などを掲載した雑誌や広告（7）	13.8%（14.8%）	15.8%（16.1%）	11.6%（13.0%）
8	女性の容ぼうを競うミス・コンテスト（8）	8.1%（ 4.5%）	6.7%（ 4.4%）	8.9%（ 4.7%）
9	その他（9）	4.0%（ 3.1%）	3.6%（ 2.2%）	5.0%（ 4.7%）

✍その他の記載事項（15 件）

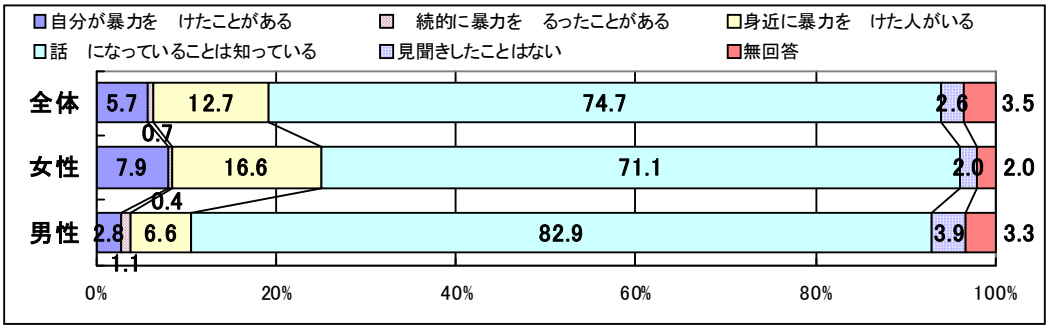
○ＴＶ、マスコミによる過剰な取材（40 代女性）
○パワハラ（50 代女性）
○女性が仕事を続けにくい環境（20 代女性）
○「女なのに○○して」という人(30 代女性)
○思想、言論の自由が犯されたとき又は、それを犯す行為（30 代男性）
○身体障害者に対する労力への正当な評価と対価（50 代男性）
○３・４・５・８等が発覚した後の社会の対応の微妙さ(20 代男性)
○８（ストーカー（つきまとい行為、痴漢行為）に対する訴訟での立証過程（50 代男性）
○全てですが、自分に関係がないことは分からないです(50 代男性)
○無し、問９-①で「２」を選択したら「人権が尊重されていない」内容を問う設問はナンセンスである（40 代男性）
○特に感じてはいない、特になし（２件）（30 代女性 2 名）
○尊重されていると思う(50 代男性)
○思うものがない（50 代女性）
○どちらかというと女性目線のアンケート（30 代男性）

問11　配偶者・恋人から継続的に身体的・精神的な暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けることが、大きな問題になっています。次の中からあてはまるものに○印をつけてください。

1　自分が暴力を受けたことがある
2　配偶者・恋人に継続的に暴力を振るったことがある
3　身近に暴力を受けた人がいる
4　テレビや新聞などで話題になっていることは知っている
5　見聞きしたことはない

「テレビや新聞などで話題になっていることは知っている」が 74.7%（前回調査 78.5%）と前回調査と同様に最も多くなっていますが、「身近に暴力を受けた人がいる」が 12.7%（前回調査 7.2%）、「自分が暴力を受けたことがある」が 5.7%（前回調査 5.4%）と増加し、およそ 5 人に 1 人（18.4%）の方が自分や身近な人が暴力の被害に遭っていることになります。この数値は、国の「男女間における暴力に関する調査報告書」（平成 21 年 3 月）の配偶者からのＤＶ被害経験 19.9%（女性 33.2%男性 17.8%）とほぼ同じ割合となっています。

「自分が暴力を受けたことがある」と答えた方の内訳は、26 人中男性 5 名女性 20 名無回答 1 名と、女性の被害が多くなっていますが、男性の被害体験もあります。また世代別では 60 代が 10 人と一番多く、次に 30 代が 6 人となっています。



▸▸　が多かった項目　に掲載（ ）は前回(平成 15 年)調査の割合（ ）は前回調査がない項目

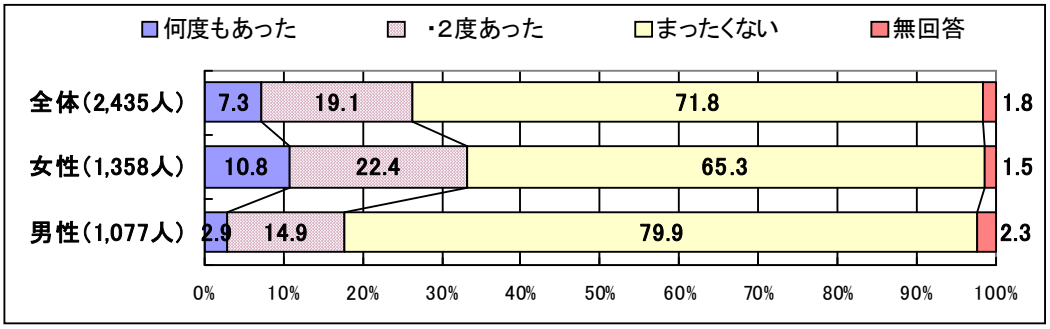
回答項目		全体	女性	男性
1	テレビや新聞などで話題になっていることは知っている	74.7%（78.5%）	71.1%（76.6%）	82.9%（81.2%）
2	身近に暴力を受けた人がいる	12.7%（ 7.2%）	16.6%（ 7.3%）	6.6%（ 7.1%）
3	自分が暴力を受けたことがある	5.7%（ 5.4%）	7.9%（ 8.0%）	2.8%（ 1.2%）
4	見聞きしたことはない	2.6%（ 3.6%）	2.0%（ 0.7%）	3.3%（ 8.2%）
5	配偶者・恋人に継続的に暴力を振るったことがある	0.7%（ — ）	0.4%（ — ）	1.1%（ — ）

▸▸自分が暴力を受けたことがある人数と内訳

	全体 26 人	女性 20 人	男性 5 人	無回答 1 人
20 代	1		1	
30 代	6	6		
40 代	4	2	2	
50 代	3	2	1	
60 代	10	8	1	1
70 代	2	2		

▸▸配偶者からのＤＶ被害経験

これまでに結婚したことのある人のＤＶ被害経験『身体に対する暴行、精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫、性的な行為の強要』について



「男女間における暴力に関する調査報告書（平成 21 年 3 月）」（平成 20 年 10 月～11 月内閣府男女共同参画局調査）から抜粋

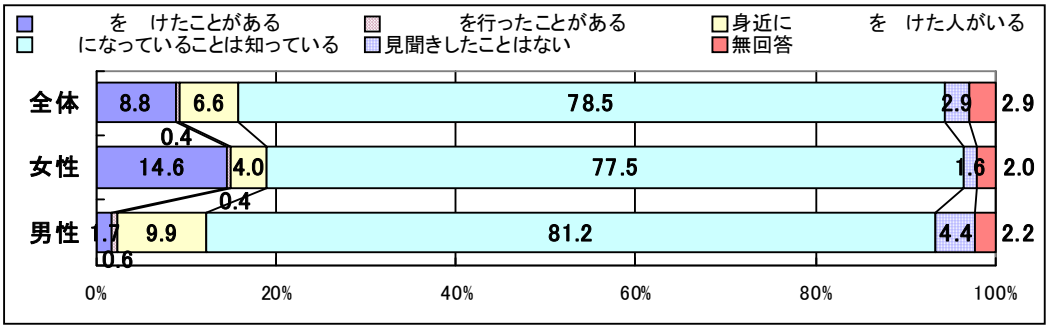
問12-①　セクシュアル・ハラスメント（セクハラ・性的いやがらせ）についてお聞きします。次の中からあてはまるものに○印をつけてください。

１　セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある
２　セクシュアル・ハラスメントを行なったことがある
３　身近にセクシュアル・ハラスメントを受けた人がいる
４　テレビや新聞などで問題になっていることは知っている
５　見聞きしたことはない

※１に○印の方は⇒問 12-②へ
※２・３・４・５に○印の方は⇒問 13 へ

「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が 78.5%（前回調査 78.5%）と高い割合となっています。

「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」人は 8.8%（前回調査 8.5%）で、前回調査時とポイントはあまり変わりませんが、人数は 19 人から 40 人と 2 倍に増えています。その内訳としては、女性が 14.6%(37 人)、男性の 1.7%（3 人）と女性のポイントが高く、およそ 7 人に 1 人の方がセクハラを受けたことがあることになります。



▸▸　が多かった項目　に掲載（ ）は前回(平成 15 年)調査の割合（ ）は前回調査がない項目

回答項目		全体	女性	男性
1	テレビや新聞で問題になっていることは知っている	78.5%（78.5%）	77.5%（74.5%）	81.2%（84.7%）
2	セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある	8.8%（ 8.5%）	14.6%（13.9%）	1.7%（ 0.0%）
3	身近にセクシュアル・ハラスメントを受けた人がいる	6.6%（ 4.9%）	4.0%（ 3.6%）	9.9%（ 7.1%）
4	見聞きしたことはない	2.9%（ 2.2%）	1.6%（ 0.7%）	4.4%（ 4.7%）
5	セクシュアル・ハラスメントを行なったことがある	0.4%（ — ）	0.4%（ — ）	0.6%（ — ）

▸▸セクハラを受けたことがある人数と内訳

	全体 40 人	女性 37 人	男性 3 人
20 代	3	3	
30 代	14	14	
40 代	11	9	2
50 代	7	6	1
60 代	5	5	

問12-②　問 12-①で「１　セクシュアル・ハラスメント（セクハラ・性的いやがらせ）を受けたことがある」と答えた方にお聞きします。そのとき、あなたはどうしましたか。あてはまるものに○印をつけてください。

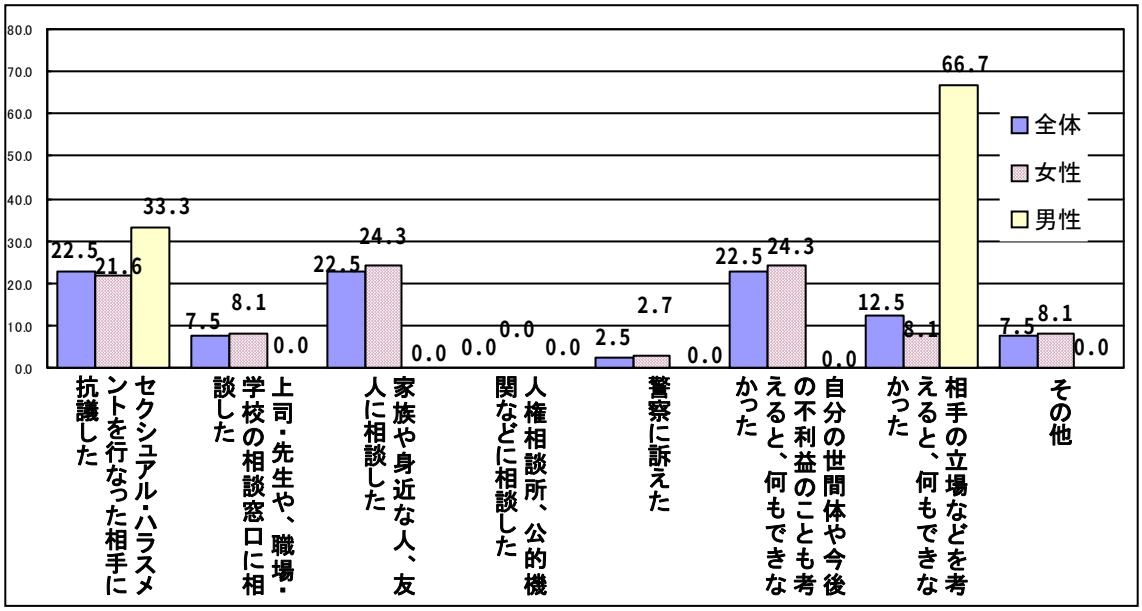
１　セクシュアル・ハラスメントを行なった相手に抗議した
２　上司・先生や、職場・学校の相談窓口に相談した
３　家族や身近な人、友人などに相談した
４　人権相談所・公的機関などに相談した
５　警察に訴えた
６　自分の世間体や今後の不利益のことも考えると、何もできなかった
７　相手の立場などを考えると、何もできなかった
８　その他（　　）

「セクハラを受けたことがある」と答えた 40 人のうち、「自分の世間体や今後の不利益のことも考えると、何もできなかった」が 22.5%（前回調査 10.5%）、「家族や身近な人、友人に相談した」が 22.5%（前回調査 10.5%）、「セクシュアル・ハラスメントを行なった相手に抗議した」は 22.5%（前回調査 31.6%）と 3 項目が同率で、それぞれ対応が分かれています。

また、「何もできなかった」（「自分の世間体や今後の不利益のことも考えると、何もできなかった」22.5%（前回調査 10.5%）、「相手の立場などを考えると、何もできなかった」12.5%（前回調査 31.6%）と答えた方の割合が 35.0%（前回調査 42.1%）と高いポイントとなっています。

世代別では、20 代（3 人）では、「誰かに相談」や「相手へ抗議」をしていない状況がみられ、30 代（14 人）では、「家族や身近な人、友人などに相談した」が 7 名と半数を占め、若い世代ほど、相談しにくい傾向が見られます。

平成 19 年 4　1　より、改正男女雇用機会均等法「雇用の分野における男女の均等な機会　遇の　保等に関する法律」が施行され、　アル・　ス　ント対策が強化され、職場を含め相談体制が整備されてきていますが、「上司・先生や、職場・学校の相談窓口に相談した」は 7.5%（前回調査 5.3%）と少なく、前回同様、「人権相談所・公的機関への相談」は 0 件で、警察以外の公的機関等の相談窓口について知られていないことがうかがえます。



▸▸選択が多かった項目順に掲載（　）は前回（平成 15 年）調査の割合

	回答項目	全体	女性	男性
1	家族や身近な人、友人などに相談した	22.5%（10.5%）	24.3%（10.5%）	0.0%（ 0.0%）
2	自分の世間体や今後の不利益のことも考えると何もできなかった	22.5%（10.5%）	24.3%（10.5%）	0.0%（ 0.0%）
3	セクシュアル・ハラスメントを行なった相手に抗議した	22.5%（31.6%）	21.6%（31.6%）	33.3%（ 0.0%）
4	相手の立場などを考えると、何もできなかった	12.5%（31.6%）	8.1%（31.6%）	66.7%（ 0.0%）
5	上司・先生や、職場・学校の相談窓口に相談した	7.5%（ 5.3%）	8.1%（ 5.3%）	0.0%（ 0.0%）
6	その他	7.5%（ 0.0%）	8.1%（ 0.0%）	0.0%（ 0.0%）
7	警察に訴えた	2.5%（ 5.3%）	2.7%（ 5.3%）	0.0%（ 0.0%）
8	人権相談所・公的機関などに相談した	0.0%（ 0.0%）	0.0%（ 0.0%）	0.0%（ 0.0%）

▸▸人数（世代別）　　単位：人

	回答項目	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	計
1	家族や身近な人、友人などに相談した		7	2			9
2	自分の世間体や今後の不利益のことも考えると何もできなかった	1	2	3	1	2	9
3	セクシュアル・ハラスメントを行なった相手に抗議した		3	3	2	1	9
4	相手の立場などを考えると、何もできなかった	1		2	2		5
5	上司・先生や、職場・学校の相談窓口に相談した		1		1	1	3
6	その他	1		1		1	3
7	警察に訴えた				1		1
8	無回答		1				1
計		3	14	11	7	5	40

✍その他の記載事項（３件）

○上司と部下としての信頼関係は良好で、２０年前はそれほど深刻なセクハラでもなく、下ネタ、ワイ談程度で、重大なことという意識はなかった。今はイヤだが・・・
（40 代女性）

○そんなに悪気もなさそうで、いやな思いもあまりしなかったのでスルーしました
（20 代女性）

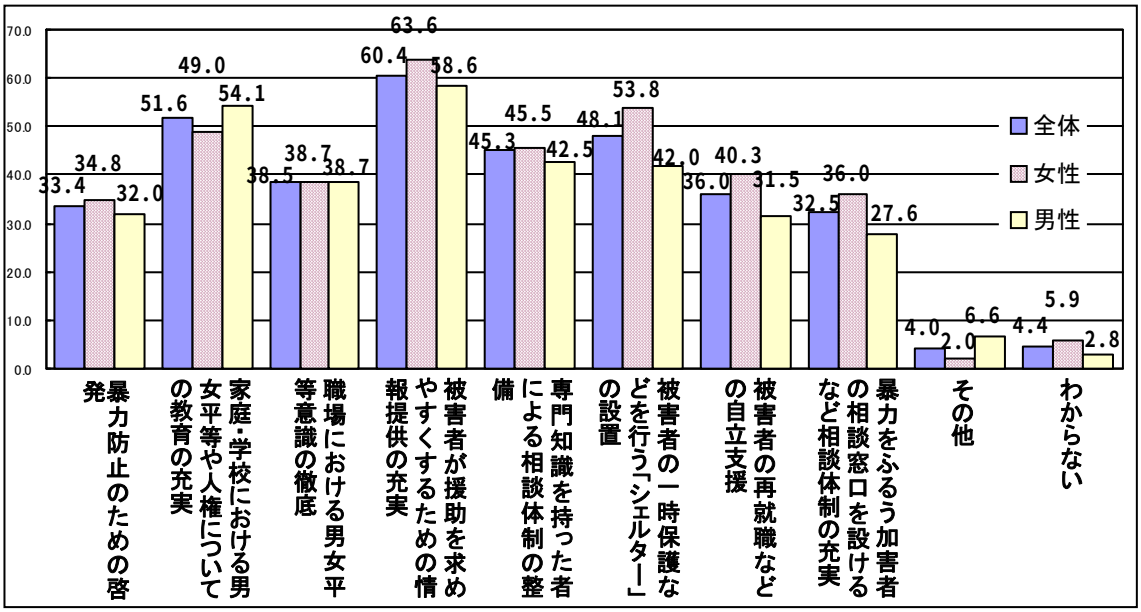
○足を思いっきり踏んづけた（60 代女性）

問13　配偶者・恋人から継続的に身体的・精神的な暴力（ドメスティック・バイオレンス）、セクシュアル・ハラスメント（セクハラ・性的いやがらせ）、ストーカー行為（つきまとい行為）、売買春、性犯罪などの暴力防止、被害者支援への取組みとして、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものすべてに○印をつけてください。

1　暴力防止のための啓発
2　家庭・学校における男女平等や人権についての教育の充実
3　職場における男女平等意識の徹底
4　被害者が援助を求めやすくするための情報提供の充実
5　専門知識を持った者による相談体制の整備
6　被害者の一時保護などを行う「シェルター」の設置
7　被害者の再就職などの自立支援
8　暴力をふるう加害者の相談窓口を設けるなど相談体制の充実
9　その他（　　）
10　わからない

「被害者が援助を求めやすくするための情報提供の充実」が60.4%と最も多く、次に「家庭・学校における男女平等や人権についての教育の充実」51.6%、「被害者の一時保護などを行う「シェルター」の設置」48.1%、「専門知識を持った者による相談体制の整備」43.5%と続いています。

全体的に、男性より女性の方がやや高い割合となっていますが、「家庭・学校における男女平等や人権についての教育の充実」（男性54.1%．女性49.0%）と「その他」（男性6.6%．女性4.0%）の2項目で、女性より男性の方が高い割合となっています。



▶▶　　が多かった項目　に掲載(　)は前回(平成 15 年)調査の割合(　)は前回調査がない項目

回答項目		全体	女性	男性
1	被害者が援助を求めやすくするための情報提供の充実	60.4%（—）	63.6%（—）	58.6%（—）
2	家庭・学校における男女平等や人権についての教育	51.6%（—）	49.0%（—）	54.1%（—）
3	被害者の一時保護などを行う「シェルター」の設置	48.1%（—）	53.8%（—）	42.0%（—）
4	専門知識を持った者による相談体制の整備	43.5%（—）	45.5%（—）	42.5%（—）
5	職場における男女平等意識の徹底	38.5%（—）	38.7%（—）	38.7%（—）
6	被害者の再就職などの自立支援	36.0%（—）	40.3%（—）	31.5%（—）
7	暴力防止のための啓発	33.4%（—）	34.8%（—）	32.0%（—）
8	暴力をふるう加害者の相談窓口を設けるなど相談体制の充実	32.5%（—）	36.0%（—）	27.6%（—）
9	わからない	4.4%（—）	5.9%（—）	2.8%（—）
10	その他	4.0%（—）	2.0%（—）	6.6%（—）

その他の記載事項（18 件）

〇加害者への厳罰の徹底と加害者への再犯防止への指導を行う（60代男性）
〇加害者の相談窓口ではなく、強制カウンセリングの施設（50代男性）
〇加害者の意識改革が必要だと思う(40代女性)
〇加害者に対する厳罰の強化（80代女性）
〇法的処置で（法整備、厳格化）対応（50代男性）
〇法律を強化して厳しく罰する（40代男性）
〇法律を厳しくする。現状が甘すぎる（20代男性）
〇警察力強化、法整備（警察が手を出せるように）(80代男性)
〇警察がしっかり対応すること(40代女性)
〇警察など公的機関の積極的な介入(40代男性)
〇警察の事後処理を事前処理の見直し（20代男性）
〇身も心も強くなるための精進(30代男性)
〇女性からの言葉の暴力を受けている男性もいるのではないか。男⇒加害者、女⇒被害者という単なるフェミニズム、ポピュニズムである(40代男性)
〇深刻なセクハラは別として、何でもセクハラにする風潮はいかがなものかと思っている（50代男性）
〇ただ話を聞くだけでなく、きちんと保護され守るようにしてあげてほしい（30代女性）
〇子供のみならず、大人の教育も必要になってきているのでは(30代女性)
〇情報提供を積極的に促し、芽を摘む(80代)
〇被害者の普段の言動、行動にも気をつけることが必要(60代)

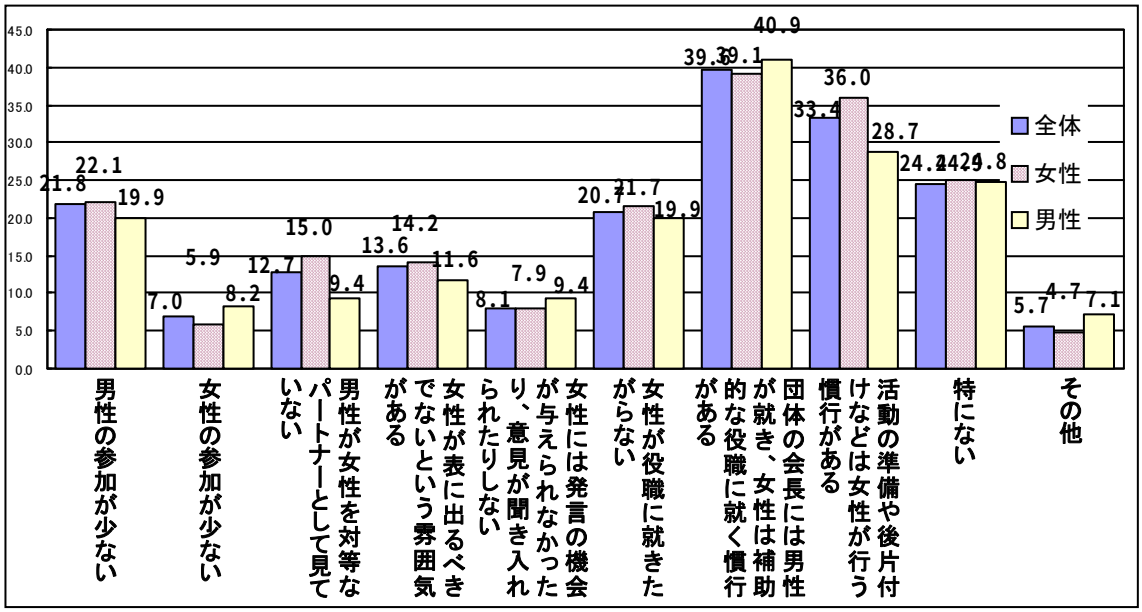
（５） 男女平等参画について

問14　あなたは、地域活動での男女共同参画について、どのように思いますか。次の中からあてはまるものすべてに○印をつけてください。

１　男性の参加が少ない
２　女性の参加が少ない
３　男性が女性を対等なパートナーとして見ていない
４　女性が表に出るべきでないという雰囲気がある
５　女性には発言の機会が与えられなかったり、意見が聞き入れられたりしない
６　女性が役職に就きたがらない
７　団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある
８　活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある
９　特にない
10　その他（　　）

「団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」が 39.6%と最も多く、次に「活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある」が 33.4%と多く、地域活動においても性別による役割分担が存在する傾向がうかがえます。

また、「その他」5.7%の記載には、地域活動が「わからない、知らない」等の記載が多く見られ、自治会や町内会、地域での NPO やボランティア、サークル活動等の居住している地域の活動についての関心が薄れてきている傾向がうかがえます。



⏩　　が多かった項目　に掲載　（　）は前回(平成 15 年)調査の割合(　)は前回調査がない項目

回答項目		全体	女性	男性
1	団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある	39.6%（－）	39.1%（－）	40.9%（－）
2	活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある	33.4%（－）	36.0%（－）	28.7%（－）
3	特にない	24.4%（－）	24.9%（－）	24.9%（－）
4	男性の参加が少ない	21.8%（－）	22.1%（－）	19.9%（－）
5	女性が役職に就きたがらない	20.7%（－）	21.7%（－）	19.9%（－）
6	女性が表に出るべきでないという雰囲気がある	13.6%（－）	14.2%（－）	11.6%（－）
7	男性が女性を対等なパートナーとして見ていない	12.7%（－）	15.0%（－）	9.4%（－）
8	女性には発言の機会が与えられていなかったり、意見が聞き入れられたりしない	8.1%（－）	7.9%（－）	9.4%（－）
9	女性の参加が少ない	7.0%（－）	5.9%（－）	8.2%（－）
10	その他	5.7%（－）	4.7%（－）	7.1%（－）

🖉その他の記載事項（25 件）

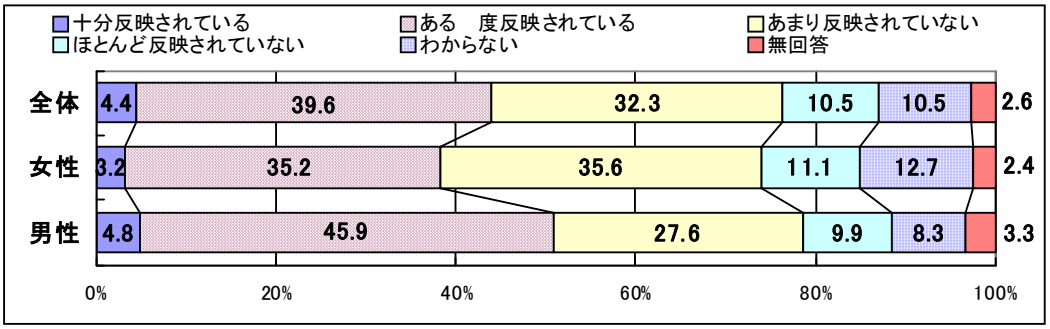
〇わからない。よくわからない。どういうものか分からない（９件）
（20代女性．30代女性．30代男性．40代男性3名．60代女性．60代男性．70代男性）
〇参加したことがないのでわからない。参加機会が少なく分からない（５件）
（20代女性．30代女性．　80代男性）
〇仕事をしているので自分が地域活動に参加していないのでわからない（50代女性）
〇どのような活動をしているのか知らない。地域活動について知らない（２件）
（20代女性．50代男性）
〇活動自体の存在を知らされていない（50代男性）
〇地域活動での男女共同参画の場が分からない（80代男性）
〇男性の中・高年の参画が少ない(男性の老人が多い)（50代女性）
〇地域活動に参加する人が少なくなっている（20代男性）
〇そんな事はないと思いますが・・・？？（40代女性）
〇男、女それぞれの役割があると思います(60代)
〇男性と女性の意見のつけどころが違う（60代女性）
〇一度町内の飲み会で、スナックの女あつかいされた！！（30代女性）
〇男女平等参画は参画者の理解度あり。一概に難しい（80代男性）
〇「男らしく、女らしく」を、お互いがしっかり認識すれば自ずと相手に対する態度は決まる（50代男性）

問15　あなたは、現在、女性の意見が政治や行政にどの程度反映されていると思いますか。次の中からあてはまるものに○印をつけてください。

１　十分反映されている　　２　ある程度反映されている
３　あまり反映されていない　　４　ほとんど反映されていない
５　わからない

「ある程度反映されている」が最も多く 39.6%（前回調査 42.2%）で、「十分反映されている」は 4.4%（前回調査 2.7%）と一番少ない割合となりましたが、両方を合わせると 44.9%(前回調査 44.9%)で、「あまり反映されていない」と「ほとんど反映されていない」を合わせた数値 42.8%(前回調査 42.1%)と比較するとその差は 2.1%と小さく、前回調査とほぼ同様の結果となります。

また、男性では「ある程度反映されている」が 45.9%（前回調査 60.0%）で一番多く、女性では「あまり反映されていない」が 35.6%(前回調査 41.6%)と、前回調査より差は少なくなってはいますが、感じ方に意識の違いがあることがうかがえます。



▸▸選択が多かった項目順に掲載（　）は前回（平成 15 年）調査の割合

回答項目	全体	女性	男性
十分反映されている	4.4%（ 2.7%）	3.2%（ 1.5%）	4.8%（ 3.5%）
ある程度反映されている	39.6%（42.2%）	35.2%（31.4%）	45.9%（60.0%）
あまり反映されていない	32.3%（35.4%）	35.6%（41.6%）	27.6%（25.8%）
ほとんど反映されていない	10.5%（ 6.7%）	11.1%（10.2%）	9.9%（ 1.2%）
分からない	10.5%（10.8%）	12.7%（12.4%）	8.3%（ 8.3%）

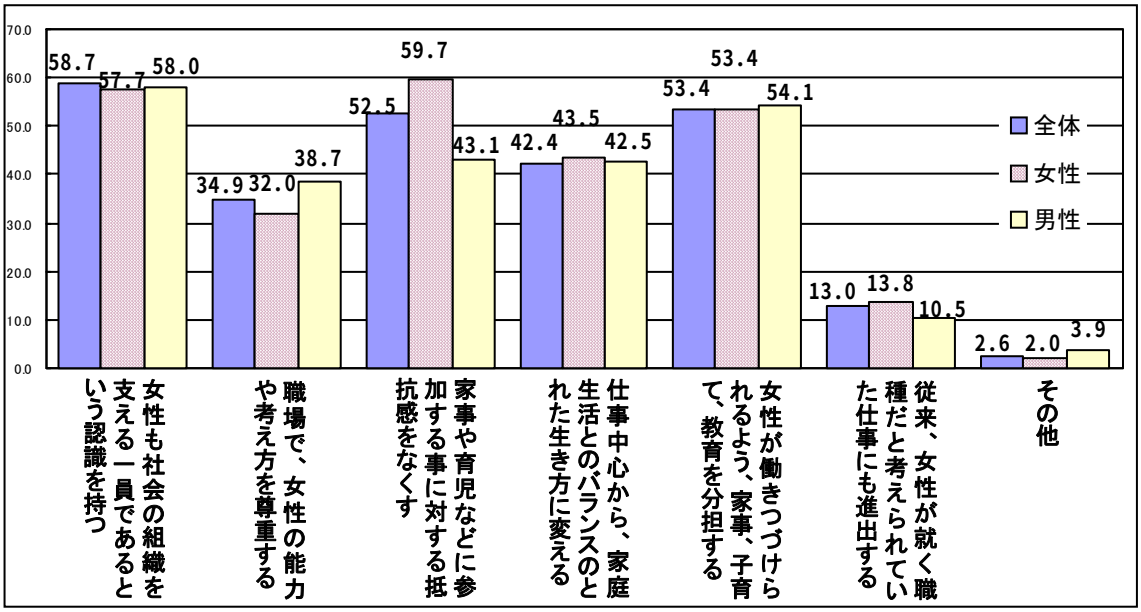
問16　あなたは、男女平等参画社会を実現するために、男性はどのようにすることが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものを３つまで選んで○印をつけてください。

１　女性も社会の組織を支える一員であるという認識を持つ
２　職場で、女性の能力や考え方を尊重する
３　家事や育児などに参加する事に対する抵抗感をなくす
４　仕事中心から、家庭生活とのバランスのとれた生き方に変える
５　女性が働きつづけられるよう、家事、子育て、教育を分担する
６　従来、女性が就く職種だと考えられていた仕事にも進出する
７　その他（　　）

「女性も社会の組織を支える一員であるという認識を持つ」が 58.7%（前回調査 68.6%）と最も多く、次に「女性が働き続けられるよう、家事、子育て、教育を分担する」が 53.1%（前回調査 51.1%）となっています。

また、女性では、「家事や育児などに参加することに抵抗感をなくす」が 59.7%（前回調査 60.6%）と一番高い割合となり、男性の 43.1%（前回調査 29.4%）と比較して、性別による意識の差が見られます。

男性では「女性も社会の組織を支える一員であるという認識を持つ」が 58.0%（74.1%）と一番高い割合ですが、前回調査よりポイントは下がり、「家事や育児や教育の分担」や「家事や育児への参加する抵抗感をなくす」のポイントが上がり、前回調査と比較して性別よる意識の差が少なくなっています。



⏩選択が多かった項目順に掲載（　）は前回（平成 15 年）調査の割合

回答項目		全体	女性	男性
1	女性も社会の組織を支える一員であるという認識を持つ	58.7%（68.6%）	57.7%（65.0%）	58.0%（74.1%）
2	女性が働きつづけられるよう、家事、子育て、教育を分担する	53.4%（51.1%）	53.4%（57.7%）	54.1%（40.0%）
3	家事や育児などに参加する事に対する抵抗感をなくす	52.5%（48.4%）	59.7%（60.6%）	43.1%（29.4%）
4	仕事中心から、家庭生活とのバランスのとれた生き方に変える	42.4%（37.7%）	43.5%（36.5%）	42.5%（38.8%）
5	職場で、女性の能力や考え方を尊重する	34.9%（44.4%）	32.0%（35.0%）	38.7%（60.0%）
6	従来、女性が就く職種だと考えられていた仕事にも進出する	13.0%（17.0%）	13.8%（14.6%）	10.5%（21.2%）
7	その他	2.6%（ 2.2%）	2.0%（ 1.5%）	3.9%（ 3.5%）

✍その他の記載事項（11 件）

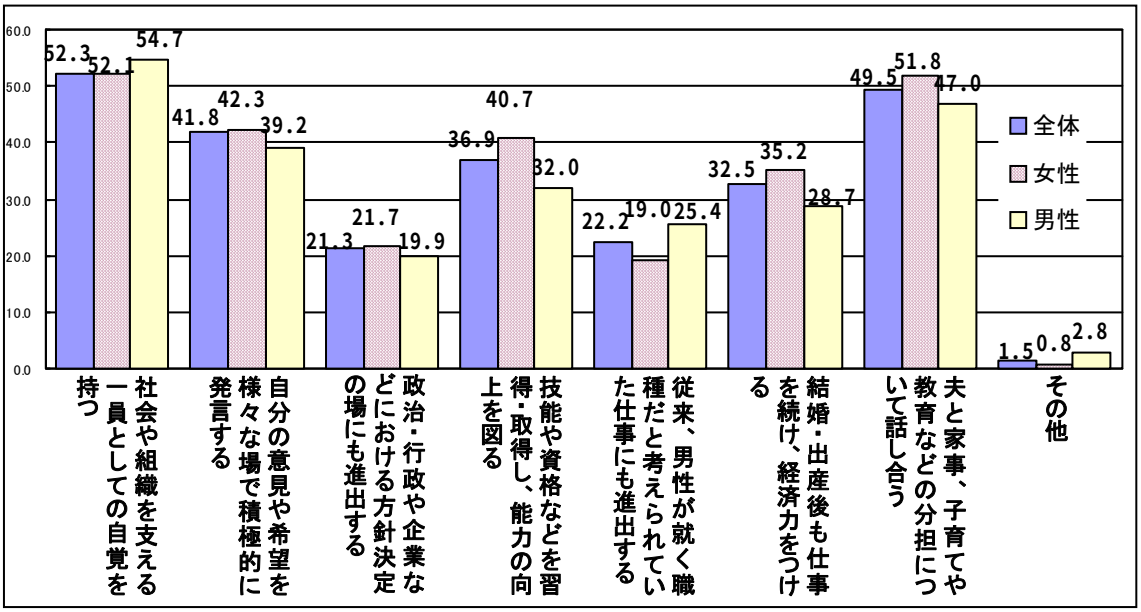
○家庭あっての仕事、マイホームパパを恥と考える風潮を捨てること。「育児=女のやること」の考えを改める（30 代女性）
○その人なりを支配するのは、いわゆる育ちであるから、家庭での両親の生き方も大切でそれが子どもの人格を形成する（50 代男性）
○安定した職がなければ、現状を変えることはできない（40 代女性）
○女性の意見が聞こえるようにする（60 代男性）
○男女は基本的に平等ではない（40 代男性）
○男性の女性に対する意識と教養を高揚させないとダメ（80 代男性）
○社会全体の仕組みを変えない限りムリ（50 代男性）
○労働時間の縮小と休みの確保（30 代女性）
○男は仕事中心で良いと思う。休みの時は手伝う（60 代女性）
○女性自身の自覚（40 代男性）
○わからない（50 代女性）

問17　あなたは、男女平等参画社会を実現するために、女性はどのようにすることが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものを３つまで選んで○印をつけてください。

１　社会や組織を支える一員としての自覚を持つ
２　自分の意見や希望を様々な場で積極的に発言する
３　政治・行政や企業などにおける方針決定の場にも進出する
４　技能や資格などを習得・取得し、能力の向上を図る
５　従来、男性が就く職種だと考えられていた仕事にも進出する
６　結婚・出産後も仕事を続け、経済力をつける
７　夫と家事、子育てや教育などの分担について話し合う
８　その他（　　）

「社会や組織を支える一員としての自覚を持つ」が 52.3%(前回調査 61.9%)と最も多く、次に「夫と家事、子育てや教育などの分担について話し合う」が 49.5%(前回調査 57.0%)となっており、問 16（男性に必要なこと）と同じような結果となっています。

男女別であまり差は見られませんが、年代別では、子育て中と思われる 40 代以下で「夫と家事、子育てや教育の分担について話し合う」が最も多く、50 代以上で「社会や組織を支える一員としての自覚を持つ」が多いという結果となっています。



▸▸選択が多かった項目順に掲載（　）は前回（平成 15 年）調査の割合

	回答項目　()は前回の順位	全体	女性	男性
1	社会や組織を支える一員としての自覚を持つ(1)	52.3%（61.9%）	52.1%（60.6%）	54.7%（63.5%）
2	夫と家事、子育てや教育などの分担について話し合う(2)	49.5%（57.0%）	51.8%（64.2%）	47.0%（45.9%）
3	自分の意見や希望を様々な場で積極的に発言する(4)	41.8%（41.3%）	42.3%（40.9%）	39.2%（41.2%）
4	技能や資格などを習得・取得し、能力の向上を図る(3)	36.9%（43.5%）	40.7%（40.9%）	32.0%（47.1%）
5	結婚・出産後も仕事を続け、経済力をつける(7)	32.5%（18.4%）	35.2%（24.1%）	28.7%（ 9.4%）
6	従来、男性が就く職種だと考えられていた仕事にも進出する(5)	22.2%（26.0%）	19.0%（21.2%）	25.4%（34.1%）
7	政治・行政や企業などにおける方針決定の場にも進出する(6)	21.3%（23.3%）	21.7%（19.7%）	19.9%（29.4%）
8	その他(8)	1.5%（ 1.8%）	0.8%（ 0.0%）	2.8%（ 4.7%）

✍その他の記載事項（６件）

○女性自身（40 代男性）
○女性に強い自信を持たせること（80 代男性）
○男女は基本的に平等ではない（40 代男性）
○問１６と同じ（社会全体の仕組みを変えない限りムリ）（50 代男性）
○男女平等がそれほど大切だとは思えない、そこまで平等性にこだわらなくても良い（20 代女性）
○男女の体の違いを認めた上で、子育ても立派な国家の仕事として社会に訴えていく（結婚・出産で仕事をやめることが当然と思わない）（30 代女性）

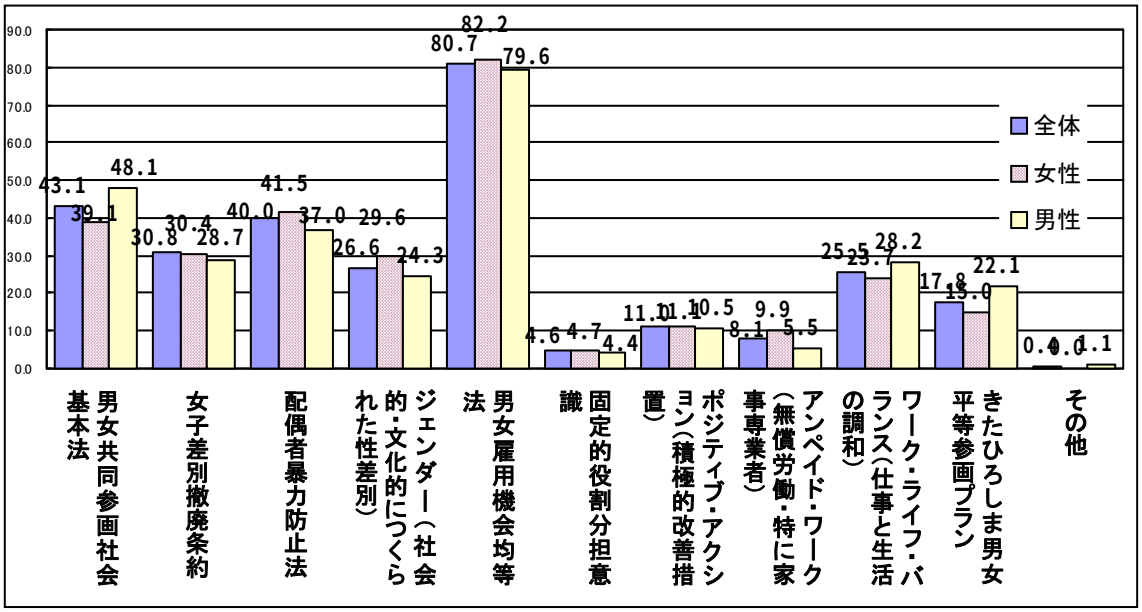
問 18　次の男女平等参画に関する言葉のうち、あなたがこれまでに見たり聞いたりしたことがあるものすべてに○印をつけてください。

1　男女共同参画社会基本法
2　女子差別撤廃条約
3　配偶者暴力防止法
4　ジェンダー（社会的・文化的につくられた性差別）
5　男女雇用機会均等法
6　固定的性別役割分担意識
7　ポジティブ・アクション（積極的改善措置）
8　アンペイド・ワーク（無償労働・特に家事専業者）
9　ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
10　きたひろしま男女平等参画プラン
11　その他（　　）

「男女雇用機会均等法」が 80.7%（前回調査 87.9%）と最も多く、次に「男女共同参画社会基本法」が 43.1%（前回調査 39.5%）、「配偶者暴力防止法」が 40.0%と高くなっています。

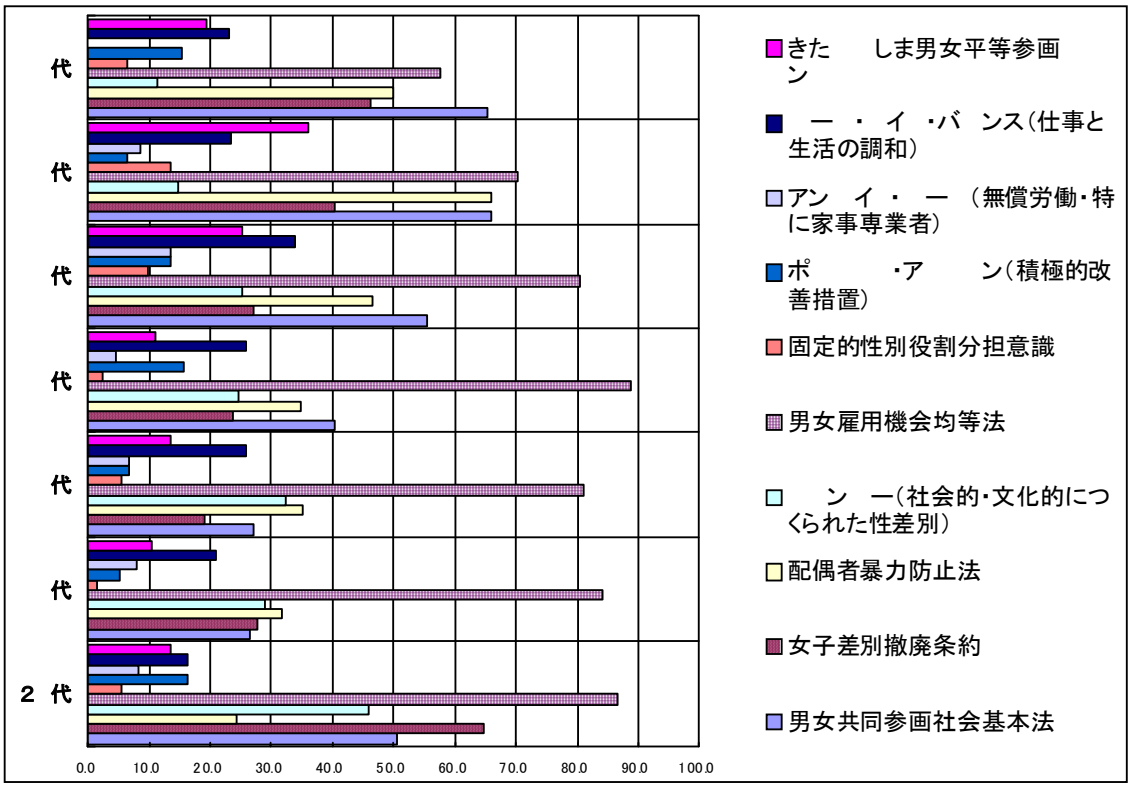
北広島市の男女平等参画推進計画である「きたひろしま男女平等参画プラン」は 17.8%と認知度が低い状況がうかがえます。

性別ではあまり差は見られず、年代別では、「男女共同参画社会基本法」の認知度が 60 代以上では 50%以上と高く、次に 20 代 50 代で 40%超、30 代 40 代が 20%超の数値となっています。平均的には 70 代、60 代、20 代、50 代、40 代、30 代、80 代の順で認知度が高くなっています。



▶▶　　が多かった項目　に掲載（ ）は前回（平成 15 年）調査の割合（ ）は前回調査がない項目

回答項目		全体	女性	男性
1	男女雇用機会均等法	80.7%（87.9%）	82.2%（85.4%）	79.6%（92.9%）
2	男女共同参画社会基本法	43.1%（39.5%）	38.1%（32.1%）	48.1%（51.8%）
3	配偶者暴力防止法	40.0%（ — ）	41.5%（ — ）	37.0%（ — ）
4	女子差別撤廃条約	30.8%（38.6%）	30.4%（36.5%）	28.7%（42.3%）
5	ジェンダー	26.6%（29.1%）	29.6%（32.1%）	24.3%（24.7%）
6	ワーク・ライフ・バランス	25.5%（ — ）	23.7%（ — ）	28.2%（ — ）
7	きたひろしま男女平等参画プラン	17.8%（ — ）	15.0%（ — ）	22.1%（ — ）
8	ポジティブ・アクション	11.0%（12.1%）	11.1%（12.4%）	10.5%（11.8%）
9	アンペイド・ワーク	8.1%（14.8%）	9.9%（17.5%）	5.5%（10.6%）
10	固定的性別役割分担意識	4.6%（ 6.7%）	4.7%（ 4.4%）	4.4%（10.6%）
11	その他	0.4%（ 0.0%）	0.0%（ 0.0%）	1.1%（ 0.0%）



その他の記載事項（２件）

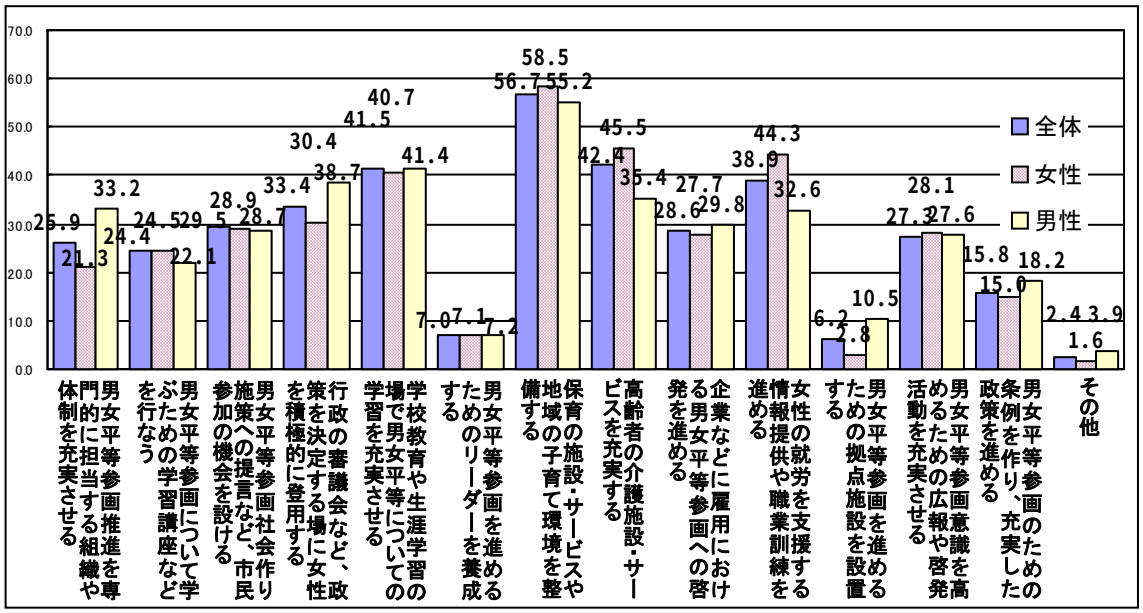
○「平等」、「共同」を使ったうわべだけの制度が多いと思う。男女共同、平等とストーカー、買春、売春、セクハラ、ドメスティック・バイオレンス、ミスコン、何だか設問が別の方向に向かってないか？社会参画のはず。別の方向に問題をすりかえていませんか。別の問題はないのか。社会への参画イコール男女平等、共同なのか。何をどうしたいのかわかりませんでした（40 代男性）
○知らない（50 代男性）

問 19　あなたは、男女平等参画社会を実現するために、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中からあてはまるものを５つまで選んで○印をつけてください。

１　男女平等参画推進を専門的に担当する組織や体制を充実させる
２　男女平等参画について学ぶための学習講座などを行なう
３　男女平等参画社会作り施策への提言など、市民参加の機会を設ける
４　行政の審議会など、政策を決定する場に女性を積極的に登用する
５　学校教育や生涯学習の場で男女平等についての学習を充実させる
６　男女平等参画を進めるためのリーダーを養成する
７　保育の施設・サービスや地域の子育て環境を整備する
８　高齢者の介護施設・サービスを充実する
９　企業などに雇用における男女平等参画への啓発を進める
10　女性の就労を支援する情報提供や職業訓練を進める
11　男女平等参画を進めるための拠点施設を設置する
12　男女平等参画意識を高めるための広報や啓発活動を充実させる
13　男女平等参画のための条例を作り、充実した政策を進める
14　その他（　　）

「保育の施設･サービスや地域の子育て環境の整備をする」が､56.7%（前回調査 56.5%）と前回調査と同様に最も多くなっています。

次に「高齢者の介護施設・サービスを充実する」が 42.4%（前回調査 33.6%）で前回調査と比較するとポイントだけでなく順位も上げています。高齢化が進み介護の問題に関心が高いことがうかがえます。続いて「学校教育や生涯学習の場で男女平等についての学習を充実させる」が 41.5%(前回調査 37.7%)となっています。前回調査で 2 番目に多かった「行政の審議会など、政策を決定する場に女性を積極的に登用する」は 33.4%（前回調査 39.9%）とポイント、順位共に下がり、より生活に身近な問題への取り組みを望む声が多いことが表れています。



▸▸選択が多かった項目順に掲載（　）は前回（平成 15 年）調査の割合

回答項目　()は前回の順位		全体	女性	男性
1	保育の施設・サービスや地域の子育て環境を整備する（1）	56.7%（56.5%）	58.5%（56.9%）	55.2%（55.3%）
2	高齢者の介護施設・サービスを充実する(6)	42.4%（33.6%）	45.5%（38.0%）	35.4%（25.9%）
3	学校教育や生涯学習の場で男女平等についての学習を充実させる（3）	41.5%（37.7%）	40.7%（42.3%）	41.4%（30.6%）
4	女性の就労を支援する情報提供や職業訓練を進める(4)	38.9%（36.8%）	44.3%（41.6%）	32.6%（29.4%）
5	行政の審議会など、政策を決定する場に女性を積極的に登用する（2）	33.4%（39.9%）	30.4%（38.7%）	38.7%（42.4%）
6	男女平等参画社会作り施策への提言など、市民参加の機会を設ける(7)	29.5%（27.8%）	28.9%（24.8%）	28.7%（32.9%）
7	企業などに雇用における男女平等参画への啓発を進める（5）	28.6%（34.1%）	27.7%（40.1%）	29.8%（24.7%）
8	男女平等参画意識を高めるための広報や啓発活動を充実させる（10）	27.3%（23.8%）	28.1%（20.4%）	27.6%（29.4%）
9	男女平等参画推進を専門的に担当する組織や体制を充実させる（9）	25.9%（24.2%）	21.3%（18.2%）	33.2%（34.1%）
10	男女平等参画について学ぶための学習講座などを行なう（8）	24.4%（26.0%）	24.5%（24.1%）	22.1%（29.4%）
11	男女平等参画のための条例を作り、充実した政策を進める（11）	15.8%（17.9%）	15.0%（16.1%）	18.2%（21.2%）
12	男女平等参画を進めるためのリーダーを養成する（12）	7.0%（ 9.4%）	7.1%（11.8%）	7.2%（ 8.0%）
13	男女平等参画を進めるための拠点施設を設置する(13)	6.2%（ 6.7%）	2.8%（ 6.6%）	10.5%（ 7.1%）
14	その他（14）	2.4%（ 1.3%）	1.6%（ 0.0%）	3.9%（ 3.5%）

✍その他の記載事項（11 件）

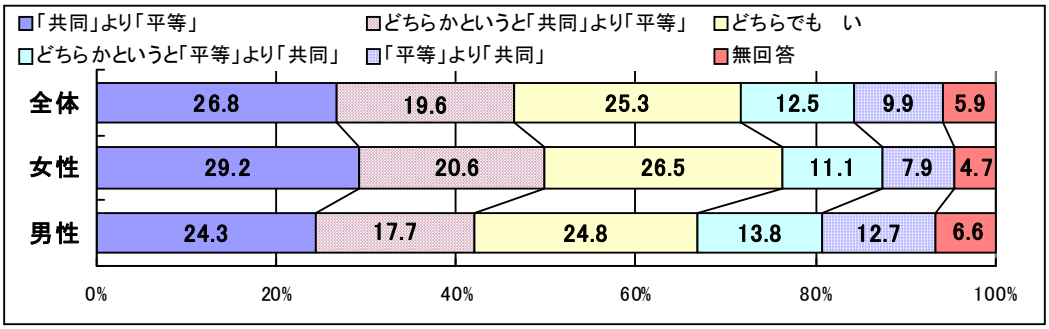
○低所得者層に経済援助をする（40 代女性）
○行政より自発的な家庭、職場の土台づくりが大事（80 代男性）
○市の力では無理（80 代男性）
○元々、あらゆる面での平等は無理があると思うし、男女が全ての面での平等でなければならないと思うので、必要な部分での平等の実現を目指しつつ、差別ではなく、区別するところは、現状のままでも良いかと（30 代男性）
○男女が実際に不平等なのか？実例を知りたい（このアンケートは不平等であるという前提の元でのものなので、私自身は不平等と思わないので、答えようがないのだ）
（50 代男性）
○本来平等ではない男女を平等にするようなことを事業にしてほしくない（40 代男性）
○「わかりやすい」プラン名にした方が良いと思う。一般市民にはわかりづらい
（30 代女性）
○特に必要なことに○をつけました（70 代女性）
○社会生活において両性があって初めて成立すると思う（60 代男性）
○これじゃ効果ないでしょう。もうやっているんじゃないの？やってないなら手遅れでしょう（40 代男性）
○何をやってもだめだべ　おまえら（40 代男性）

問20　「男女共同参画社会基本法」では、男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会を『男女共同参画社会』と規定しています。
市では、法律で使用している「男女共同参画」ではなく、現在の社会においては男女がまだ平等でないとの考え方から、あえて「男女平等参画」のことばを使用していますが、あなたはどう思いますか。次の中からあてはまるものに○印をつけてください。

１　「共同」より「平等」の方が分かりやすい
２　どちらかというと「共同」より「平等」の方が分かりやすい
３　どちらでも良い
４　どちらかというと「平等」より「共同」の方が分かりやすい
５　「平等」より「共同」の方が分かりやすい

それぞれの選択肢へ回答がありますが、「『共同』より『平等』の方が分かりやすい」と「どちらかというと『共同』より『平等』の方が分かりやすい」を合わせて 46.4%となり、「どちらかというと『平等』より『共同』の方が分かりやすい」「『平等』より『共同』の方が分かりやすい」の 37.8%を上回っています。

また、「どちらでも良い」も 25.3%と 4 人に 1 人が回答しており、名称にはあまりこだわらない人が多いことがうかがえます。



回答項目	全体	女性	男性
「共同」より「平等」の方が分かりやすい	26.8%	29.2%	24.3%
どちらかというと「共同」より「平等」の方が分かりやすい	19.6%	20.6%	17.7%
どちらでも良い	25.3%	26.5%	24.8%
どちらかというと「平等」より「共同」の方が分かりやすい	12.5%	13.8%	11.1%
「平等」より「共同」の方が分かりやすい	9.9%	7.9%	12.7%

（６） 男女平等参画についての意見・提案

男女平等参画のあり方について　意見・　提　などがありましたら、　自由にお　きください。

意見　78

意味の　ン違いする女性が増えなければいいと思います（40 代女性）
「平等」を拡大解　し、自　　しても他者　の配　や自　　を認識できない人　が多く、今の大人は男女を　わず人間関　の　点とも言える、自制心、共感性等に　けている。「男女平等」以前にこのあたりに立ち　りこれを学校教育や生涯学習の場で学　社会や場所を充実させる　きだと思います（70 代男性）
男女が平等であるという認識は必要だと考えていますが、「平等」という言　の意味を　き違え、男女を全く同様のものと　違いしている人が多いようにも思えます。 権利の上で男女を平等に　うのは全く構いませんが、職や役割の上で性別による向き・不向きが　　するという認識も必要に思えます（20 代女性）
わかりやすいのは「平等」の方だと思う。しかし男も女も共にと言う意味で「共」の文　が入っている方がいい　　（50 代女性）
「平等」は何でも平等と　えがちであるが、男・女はそれ　れ性的な特　があることを認め、また、それが社会を構成していくうえで、必要不　　であること。こうした観点からの　や啓発などを実施していく　きである。だから「平等」より「共同」が　　ーと考えます （60 代男性）
．意識の上では男女平等ではあるが、実際の生活ではまだ、男性優　の感じがする。 2．女性も積極的に組織の　ー　ーや中　になる　き。 ．共に社会を作り上　ていこうということで「共同」の言　を大　に（70 代男性）
（共同）と（平等）では全く意味合いが違う。より積極的　念でいうと（共同）ではないか （70 代女性）
積極的に男女共同で参加出来る所に出向き、お　いに理解出来る共同作業を年齢に関　なく活動をする事も　いと思って出来るだけ実行をしています（60 代女性）
人的ですが、参画については　家では夫（男）と　（女）は平等です（50 代女性）
性別などで相手を　　したり、　け入れるのではなく、1 人の人間として、人権を尊重することが大　だと思う。男性だから、女性だからと思う事が、そもそもの間違いだと思う （30 代女性）
男女平等、男女平等参画という「言　・感覚」があること自体が平等でないことを　明していると思う。あえて、こういうことを言わなくても、「実　的に全てにおいて平等」であることが望ましいという考え方の持　である。こういうことを言わなくても「真に平等である社会、人間、制度、考え方の　　」の実現が望ましい （60 代男性）
10 年、20 年前に比　ると、今はとても男女平等、女性にとって働きやすい世の中になっていると思います。その　　に国や社会が、結婚しても、子供を産んでも、職場に　　しやすい環境を作ってくれたからだと思います。その他にも、世の中　利なものがたくさん増え（　　機とか、　ン　など）家事が　になって、　　が時間に　われることなく、自分の時間が出来、家事以外にも、働くことや、習い事などの　　が出来るようになったのかなと思います。　の人は、男は働き、女は家事をするという考え方が多いと思います。　い人（とくに女の人）はこの考えを差別とかいう人もいますが、　は差別ではなく、男の人と女の人の役割が違うだけのことと思います。仕事を持つ女性、専業　　の人、とにかく、女性は出産後も　々な　　ができるようになったことは　ばしい事ではないでし　うか （30 代女性）

何年かかるでし う。男女平等になるために(80 代女性)

・ 本的慣習である男尊女 の長い の れを け 人々がまだ多い現状では、男女共同 の 行には時間が必要と思われる
・女性特 の出産・育児は、仕事の中 が けることのできない実情をどのように か の工夫が必要と思われる(70 代男性)

このアン ートの に うか かは分から が、前 の く、男女平等の意識は一 にしてなるものでなく、しかも子が生まれた時から が して か ばなら し、そうしてなった人格が男女不平等という言 をこの世から無くして くものである。その為には、やはり子育てをする の生き方、意識が大 となる。それほど不平等に関する ー は根のいものであると思う。かく言う 自身も無意識に相手を差別しているのやも知れ が、少なくとも の子供に対しては、「男らしくと女らしく」を トーにそれを尊重し、尊 して共に生きて く事を仕 んだつもりです。それ 人的には、男女不平等を する事自体が ン ンスで、もっと根本的な から(の意識と子供 仕 み)考 て く きと思っている。

(50 代男性)

結婚して 30 年専業 なので、現 の各職場において能力のある女性は重要なポストについていると思っているので実 は解らないですが、これから先はきっと女性が男性をい き、女男等の が出るかも。理由として、20 代の男性(自分の子供も含めて) さいから今まで女性が強かった様な気がします。 な感じがします。

(50 代女性)

そもそも男女平等を 議していることが真の平等でない現状だからと思います。人間として男女の違いを認め、社会的能力の平等認識が特に男社会が続いてきた からみても時間を要する で、文 だけの男女平等が今 まできているように思います。女性の意識が変わるのは 、根本は男性の意識改革(特に家事労働の 等)で平等な社会が来るのではないかと っています(60 代女性)

男女平等参画自体を 定する気はないが、 ン ーなどという、今までの社会、文化を全定するような 中がかきまわすような取組はやめてほしい。あれは しいア ー です(30 代男性)

男だから、女だからという 念がある限り、平等はあり得ないと思う。実際、女性は出産がある間はどうしても仕事には専念ができないのだから、子育ての方が大事と思う。子育てを のにして社会進出といっているのはなにか違うと思う(30 代女性)

男は子供を産めない。これだけでも十分に男女は平等ではない事の根拠たりうる。男は仕事、女は家庭というのは が国の文化である。一部の ストのせん動に行政や政治が加担する きでない。どうしても平等にしたいというのであれば、女 や女子トイ 、女子 も廃止す きである。 合の い所だけ平等にして、 合の い所だけは女性である事を するのは、「 」以外の何 でもない。理性的な男性が、理性を必要とする役 につき、感情的な女性は感性を必要とする役 につく事はむし 自 な成り行きである。長年の文化には理由があるのだ。 には 固反対である。
な女性優遇は 国 の道である。 自 の最前 で女性が、 国の 強な男性 に立ち向かえるのか それが事実上不 能なのであれば、その を女性は支 う きである(40 代男性)

女性は女性らしく、男性は男性らしく、が基本だが、それ れが 性を大事にしてくらしてければいい。男女は不平等だが、不平等である事が必ずしも いこととは思えない。少し大 さに取り組みす のような気がする(20 代女性)

何でもかんでも平等は りえないと思います。男性にしか出来ない事、女性にしかできない事を、十分に理解して、共に行動をしていかなくてはならないと思います

(60 代)

子育てをしたい男性を支援する施策等も必要であると思う。また、男女平等参画、男女共同参画というと、女性がこれまで　い立場で見られてきているが、男は「仕事」ということで、　んできた人もいると思われる。自　している人が、年間 3　人以上、そのなかでも、男性の割合が女性より多いと　くが、これは、社会のなかで、まだ、「男性は仕事」という役割が根強いからであると思われる。育児休業制度の取得者も、ほとんど女性ということを　くが、育児休業制度等、男性の取得者を増やして、子育てをしたい男性を尊重するなど、男性の意見も取り入れる社会も必要であると思う （20 代男性）
多分学校教育では、一人　とりの　性を尊重した教育をされていると思います。男性か女性かということではなく、　性としてとらえているので、これ以上学校教育に負担をかけても仕方ないでし　う。どうせ、中学校からは　準　によって、　全に分けてしまうわけですから　。大人の世　で出来ないことは、子どもの世　ではできません。子どものうちから何とかしていても、大人になったらできないのです。これは教育の力が　りないからではありませんよ　。学校を 1　外に出た社会の　です。いくら公共の場が　になっても、家庭で両　が　っていたら、何ら解決にいたらないのと同じように思います（60 代）
むずかしい　です（50 代女性）
男性の　点、女性の　点、2つの　点の啓　、その他を含めて男女平等参画の推進活動をより活発とし、北広島市の一つの特　と他市より　目される様に　力を重　て　的な実　を積み重　て未来の男性、女性に残す　きであると思います （80 代男性）
人間であっても　という生　の自　の法　から来る人間本来が持っている男性と女性の特　を尊重し合うことを基に計画される共同参画である　きと思う （70 代男性）
男性と女性、人　の性差の　には現代も続いている未解決の　や習慣が世　中に　しています。　ち　んとして生まれ出て最初の社会の　「家族」の中で「人」は　しみ育てられ、人間　成は　まるのです。その　い時に　の　として　対に教えなければならないことがあるのです。相手を尊　する心、　のない行動や言　の　み、思いやりや感　の気持を　に表す、　感、等。10　までは　として徹底的に教え　まなければ、中学校や成人になってからでは　す　ます。その後、社会人として結婚したり、本アン　ートの　等に　遇した時、自らの　の中に養分として備わっていれば、よりよい解決や、　の際の　針になると思うのです。行政は家庭、学校教育の集団の中で　手して　きたい。　しい目をした子供や　しみの被害者を無くする為に（70 代女性）
い時代になりました。87　の　にはうらやましいです（80 代女性）
前・　中・　後の　変する社会を生き　いて来た者には、理解できない項目も少なくないが、それなりに、　の意見も無きにあらずだが、偏見の　りもあり得るので差え・・・。どなたも等しく仕合せな家庭（社会）生活の　とならん事を念じつつ（80 代男性）
の育った時代とは　分女性の考え方も生き方も進　しているとは思いますが、　っている　も多々あります。でも何時の時代でも学んで実　していくことは大　だと思うので、　々な事を多く学　、　い社会　み　い国になると　いと思って居ります(60 代女性)
女性が社会に出ても（仕事）、家庭（家事）が多くを占めている現状を考えると、男女平等参画にはむずかしい　である。未婚者で　っている人には男女平等を考えてほしいと思います（60 代女性）

男は仕事　女は家庭 と言う時代の高齢の　は　　におくれているもので男女平等などは　り考えたことなど無かったが、時代も変り、今の社会情　を見ても男女平等が求められているとの認識はある　度は持つ様になってきた。ただ家族制度の　　、そして　家族が多くなり　本のよき風習が　われて来たことは　　に　しい。最近の子供　の　　などを見るにつけ家庭での教育（しつけ）の重要性を感ずる。経済的に女性も社会進出、働く必要があり、外に出ることが多くなるが、今こそ家庭生活に　いて男女が充分に話合いに　力して平等の意識をもって分担して子供　を立　に育て、すばらしい家庭を　き、よき　本にすることを　に望んでいる （80 代男性）
女の子、男の子 2 人の　　です。これからの時代、男女平等は子どもの時から伝えていく　きと思っています。女らしく、男らしくという言　は　いたくありませんが、女性でも自立できる仕事に就け、男性でも　理　　等身の回りのことはできるように、まず家庭での教育が必要と考えます。そのために　である夫　が手本となるよう平等であってほしい。　・　としての役割は分担していても、女性　からみれば、育児の負担は大きく、仕事に就けない人は多くいると思います。男性にも、育児の大変さや　　らしさを伝えられるよう、育児休　などの充実も図る　きだと思います。ただ、男女の違いは生　学的にどうしようもない部分があり、男女の違いを知った上で、お　いを尊重することが大　なのだと思います。強い者が　い者を　るという考えは、「平等」となっても　られてほしいです。性教育の充実も、関　があると思います。　・出産・　は女性にしかできないこと、お　いの性・生理的な違いを知ることがまず大　だと思います。２人の　になって、男と女は違う生き　だということがわかりました。違う人もいるけれど、それ　れがその人らしく生きられるように認めあうことが今の世の中には必要なのだと思います（30 代女性）
男女を平等にしようとするのは、基本的に無理だと思います。体力も精神　も体格もすて違う男女を平等にしようとする方が無理だと思います。ただ、もっと社会が女性の立場を理解し、　力性があれば　いと思います。また、今のお　さん　は、子供との関りをいっ　い持とうとする人が多いのに、会社の年配の方　はそれを理解しようとせず、1　休みを取るだけでも　味を言われたりします。　子家庭と　子家庭の差も仕事の場での平等より先に改善す　きだと思います。　が今　んだら、この家は　対だめになる、と思います（　　ーンの事や保護・保育　） （30 代女性）
男女平等とくり　し言われると、さらに男女の差別があるような気がします。でも　、この世の中、男と女しかいないじ　ないですか、差別だ、平等と言う事もわからなくはりませんが、やっ　り人として、人間として最低限度の　識、心がまえ、人としての　識は、　れてほしくないと思います（60 代女性）
男性の収入が多く、女性が専業　　でいられる家庭は　く一部だと思う。今は　　やが働かなければ生活出来ないという　しい現実は多いのに、働く場所や、なかなか条　に合わない職場環境、保育　の施設　の高さや数の　　、また、子供がいる事によってける、職場での　いの差別等、本当に国や地域は本気で少子化を何とかしようとしているのか　　に感じる事があります。いくら公務員が男女平等だと女性に育児休　を与えて職場　　をしやすい環境を調えても、それは公務員だからで民間、特に中　企業にはありえない事だと感じます。男性の雇用が　定して、　　が働かなくて　いくらいの収入があれば別ですが、今は　正　社員が増え子供を産むどこ　か結婚をしたくても出来ない人が多いと思います。まずは、人間として生活　　ルを上　、一人でも多く結婚や出産が不なく出来る社会を目　してもらいたいと思います。　全な男女平等はあり得ない事だと思いますが、取り組む事は大事だと思います。今の時代を生きていく事は本当に大変だなと　観的になる事も多いですが、少しでも明るい希望を持って、みんなで　力出来たらい社会になって　くのではないでし　うか（30 代男性）
アン　ートを取ってどうなるのですか　バ　らしい　　（60 代男性）

男尊女　だとか男女平等だとか何かと　　ますが、一　的に　　ースイがあったり基本的に何かを利用する　　も　くなっていたり得も多いですよ　。　　については　人の考え方　　なので男性に不利につながる場合も多い気がします。男が女を力でどうこうっていうのはもっての他ですが、　き　入りは　くないし、　　ない方も　いかと。平等・平等と権利だけを　　するのではなく認めさせなくてはだめなので　力が必要だと思います。男も女も　い、　る事です　(30 代男性)
は、特に女性と男性で平等ではないと感じていないので、正　な話あまり　味がありません。ただ、女性だけが出産・育児で仕事を続けにくい状　になることは　かなので、それを助けてくれるようなものがあれば　いな、とは思います (30 代女性)
・平等のためには、生　としての違いを認識する必要あり ・動　として種の保　のためには育児について　ーに考える ・人間の　成において、　　反抗　までの　のかかわりが子に対して重要と考える ・これらに対し、男と女がどのようにかかわるか話し合う事が必要 ・社会の　が、男　の子育てにかかわる時間に対する認識の変かくが必要　男の育児休業制度等 ・　は、子供の　を聞ける事が必要(子供が聞いてほしい時に)。それができていないから子供は　観して自　する(50 代男性)
男女平等と言っても、　人の考え方はそれ　れで、育った環境、生活習慣の違いで考え方を変えるのはなかなか難しいと思う。子供から大人までスト　スを少なくするような　とりある環境作りや制度が必要なのではと思う(30 代女性)
・議員、　長等政治を行う人の立　補、　　等に際して、地域の　ス、世　、利害による　の　除を　　できる知識を学校教育で教え、女性が進出しやすいようにする ・子供から年　り　、社会・仕事に対する　用力と　　する力を学校・家庭・社会教育の中で啓発を行う等女性の多くの人が、あら　る分野で　　者として活　できるようにしてしい。(仕事(社員・職員・議員等)は、地　的に　　ルア　　してくると男性と比較して　る傾向が見られる為)(60 代男性)
男性が子育てをしたり、　理をしたりする事　の偏見をなくし、　、女性が社会　出る事の理解が得られる事。そして女性は男性とは違うという事。その中で、お　いを理解し合える社会を望みます(50 代女性)
らしくという特性から、子育て、社会進出などがあるのではないかと思う。平等は人間の尊　ですが、社会は共同体だと思います。社会から会社　家庭　の中で時には先に立ち、後から支え　で生きていく　々だと思う(60 代女性)
男女には　　ルの差があるので共同して考えていく(40 代男性)
男と女がいるということはそれ　れの役目があるように人間として生まれてきているので、それを　れて平等とか共同を　　しす　るのはイ　です。自分は男か女かよく考えてそれ　れの性格を出すようにするのが平等、共同だと思う(80 代男性)
学校教育　　までは、男女平等が当たり前の認識になっているのに学校を　業して一社会に出ると、　　や昇格をはじめさま　まに不平等が　　しています。いくら家庭で子ども　に「女も男も　平等なんだよ」と教えても、その言　がむなしくなるのです。　体的な施策を　ち出すと同時にその施策の実　のために女も男も　力す　きでし　う、意識改革がかなり重要と思います。　、女性は長年働いても　　が　いので年　　も　いのです。年とってからも差別され続けるのです。女性の権利が　られる社会は、男性にとっても　しやすい社会になると思います。　くそうなりますように(60 代女性)

男　仕事。女　家庭の通念を根本的に改める必要があると思います。夫は職場で「　が家に居ればいいってものじ　ない」と上司に、　　までの労働を強要され、イ　ー　パパの考えを　定されています。そんな夫を持つ　は、育児の参加を夫に訴えたとこ　で無意味です。人は、何の為に働くのか、一人一人が平等な考えを持つ教育を政治がまず、啓発していってほしい。家庭は、　で支えていくものだと思うので（30 代女性）
意識の固定化する年　より　くに環境を作ること。それが人間尊重、男女の対等性が自　に　情ある社会の一員としての認識に高まると思います。　人や団体を、どこをとっても一生　　に生きている　　に育つものである事が理　です。男女　々というより、障害ありきの　を　う事が大　（60 代女性）
結婚して出産後、働きたいと思っても、保育所は　　ン　ル　ちと言われ子供を預ける事ができず働けませんでした。この様な状況では「女性は結婚、出産をしたら働けない」というイ　ー　が強くなる一方ではないでし　うか。本当に男女平等であるならば家庭をもっても仕事ができる状況を整えてほしい。このままでは晩婚、少子化は進むばかりで将来の社会に対して希望が持てません（20 代女性）
法律等で男女同数の　用等を　務とするように決定する（60 代女性）
・職場での男女平等はまだまだ理解されていないと思うので、これからも理解されるよう　していってほしいと思う。 ・子育ての環境が十分に整備されれば、女性の働ける環境や少子化　　も改善されてくると思います（30 代男性）
よほどの覚　と強い意　がなければ、女性が企業で定年まで働くことは難しいのが現状だと思う。女性が定年まで働くと考えている男性は少ないのでは　　仕事に生きがいを感じていたら、女性だって定年まで働きたいものです。性別に関　なく能力を正当に評価しなければいけない（40 代女性）
は　団法人の職員でありますが、　長職以上は市の　　です。職員は上司に対しいやな事でも反　できないのが一　的です。その内容が　　でもです。しかし、職員も自覚を持っている方は　われません。上司も　　をする人は、心の　い、人を管理するのない人がだいたいで、そういう人が多す　です。職員　　で年間数十　ものお　を　って行われます。　々の会話で、人を思いやる気持ちがあれば　　など必要ないです。管理職の人はもっと人間とは何かという　強をしてもらいたい。どんなに社会で優遇されても、人を管理できなければ何をしても同じです （50 代女性）
結　は、今までに資格を取っていれば、専門職について、出産後も、子育て後でも　　ができたり男性のように生活力もある。今、子育て中ですが、今後 3 人の子供を育てるので働けるのか仕事があるか心配です。　い時に資格を持つ　きだったと思います。今は、時間もお　もなく無理だし、広報で　集しているのも資格ありの仕事がほとんどです （30 代女性）
基本的に職場では「男女平等」として働いていましたが（　年退職）どんなに広報等をしても、未だに「男尊女　」の考えでほとんど社会は動いています。　自身、全て男女は平等だとは思っていません。な　かと言いますと、「力」「体力」についてはおとるわけで　何でも一　にや　うとすると女性には無理があります。（女性だと男性の　の仕事をしないと認められない）「　　所」が大事です。あと、　人の考え方を変化しなければいけません。未だに「女はだまって家にいればいい」「家事をする　き」と家政　的な思考をもっている男性がほとんどです。各家庭の教育からこのように子供の　からしつけられるせいか大人になっても　けきらないようです。　人の考えが変化するような　い方法があればいいものです（30 代女性）

労働、企業の　遇等は、女性の　遇をもう少し上　る　きだと思います。結婚し、出産後に女性が働き男性が専業　　の役割でも生活　　ルが　定出来るなら、少子化対策にもなるかと。ただし、全ての　での平等は無理だと思う。例えば、　婚する時に女性が子供を　き取り、男性　が養育費等を　いますが、　の　ースとの比率が　分　分にはならないし、　子家庭に補助　は出ますが、　子家庭に補助　は出ません　。女性は少し　合の　い所だけ「平等」と　しているとこ　もあるかと思います（30 代男性）
少子化　　を　一に考えながら、男女平等の　　を　う事が大　であり、一　を　い出し、　の　き時代に　る、それこそが現　社会に一番必要な事と考えます（50 代男性）
家庭から出て外で働くばかりが男女平等と考えている　い人が多いようですが子供を育てる事も大事な仕事と思います。これからの社会を担う子供　が両　の生活を手本に人は平等であると感じる子になる様手本を　して下さい（70 代女性）
せめて、　学校　業までは子供から目の届く社会であって　しいと思います。それが、　であればなおいいと思います。そのように働ける社会が理　です（50 代男性）
出産しても働きやすく、保育　の施設が手続きしてもす　入　できる　能性が少ないのです　入　できる様にしていただけると、子どもをたくさんほしいという家庭が増えるのではないでし　うか（50 代女性）
子供のいる家庭で　婚後の男性の経済負担の　務徹底を望みます（60 代男性）
女性が子育てをしながら働く（　ル　イ　）ことは職場に　　をかけることも多々あります。子供が大きくなれば手が　れて女性たちも大きな力になって社会に　　が出来るようになると思います。その間「お　い様」の気持で社会が　かく見　り援助できる組織　くりが大　だと考えます（50 代女性）
自身は、働いていないし、働く場所（子供を預けても、　さい為　け入れてもらえない、時間が合わない）がない為あきらめています。まずは、子供にとって　心できる家庭を作り、　いてから働けば、子供も、男女平等、　働に対し、　だてなく考えられる子になるのではないのでし　うか　まずは働かなくても　心して子育てできる環境を。お　さんが働かなくても、学　場、交　の場を作っていけば、社会とつながり、子育て後の社会　　もしやすいのではないのでし　うか　（30 代女性）
「男女平等参画」って、初めて聞いた言　ですが、何か　味をもちました。　から、男女平等とは、　々な場で聞きますが、やはり、今もこれからも少し難しい　　のような気がします。　には　さな子がいるので、育児に関しては、今の社会・家庭でもっと平等であってほしいと思いました。以上（20 代女性）
男女平等って言いますけど、男性の意識を高めないとついていけないと思います （30 代女性）
今の世の中なんだかんだ言っても男性の考え方がまだ変わっていないように思います。女性が子供を育てながら働ける場所があれば、また　心して預ける場所があれば　。家庭においても女性の　け負う部分が大きいと思う。男の人は　くまで働いて、仕事から　ってきた女性が家庭内を全てやらなくてはいけない。どこかに「男は仕事、女は家庭」という考え方が残っているためだと思います（40 代女性）
働き方、役割分担などで男女とも意識を変えないと、「　に　いた　　」になってしまうと思います。市は、その働きかけをして　しいと思いますし、市の役職者、職員自身の意識と行動も　われていると思います（40 代男性）
ア　くさい　もっとやることあるだ　ー（40 代男性）

・町内会の集会時、 当、 み の 、用意は女の人が行っている、男性もやってほしい ・「 人方はそちらの方で」等と言っている ・町内会の役員は、全員男性を 出している ・家庭では、いくら専業 だからといって の考えを全くとり入れない、これって「 」ではないのでし うか。女性は トではない（60 代女性）
・未だに い女の子でも く るまわないと、 ないとか、結婚できないと思っているのは、まだまだ 的な体制が変わってないと思います。 ・もっと、仕事に参画、育児を助ける ス が必要です ・また広報活動でも など女性が被害にあっても 済の道とか情報が必要だと思います（50 代女性）
男女の 働、共同、共生によって社会が成り立っていることの学習が必要と思う。特に、女性の自覚と を たす社会の実現 の 力が大 だと思います（70 代女性）
職場において給 は平等で いと思っている女性は多いが無理して仕事 を増やしたくないという意識が働いているように思う。性差がある以上体力には女性に限 があり、男性にはどちらかというと長時間勤務に えれる体力があり「男女平等参画」ということには では理解できるが現実としてとらえるときには、やはり男性の大半が ある仕事をせるを得ない実情である。従って女性はとかく ある仕事を けたがる傾向にある。この現状を改善なしには「男女平等参画」という言 だけが「一人 き」すると思う（50 代男性）
市など公的機関が男女平等参画について 体的な取組みを行い市民に すことを提します。 例えば 市職員の 部人事に、女性を積極的に登用する。そのためには職員の意識改革を含めしっかりとした人 を養成することが必要。 各種の 員会等 女性を多く登用する（60 代女性）
制度や法律、条例等を変えるより先に意識改革がなければ、本当に変わったことにはならないので、少しずつ教育の場等も りて広く内容を広めることが必要。 会よりも 外、 の方が、男女の差や慣行が今だ、多く残っている様に感じる。市役所も男の方が多く上のポ ンにいるように見 けられるので見本となるように女性役員を今以上に 用したり・・・議員も男性ばかりなので、女性の方が少しでもいると いなと思います。いきなりでは無理もありますが少しずつでも 実に変わってほしいです（30 代女性）
統計、 一 など 的 点からだけではなく、現場 ルの 一 に えられるような取組み方をす き（ を最大限に発揮する為に）（20 代男性）
話は別ですが、議員（市）の数が多す ます。 の いはやめて下さい。50% でも十分す ると思います。 以外で市議の活動はほとんど見えませんし、町内でもいつもその話が出ます。 、議員報 も高す る。市としての くりのビ ンが明 に見えてきませんので、 って下さい。（50 代男性）
とにかく地域の人々が く生活出来る町作りをしていただきたい。（60 代男性）
男女平等参画という意味から知らせないと（ 明しないと）わからない。そんなことをやっている事も知りませんでした。もう少し、一 の方にたくさん知ってもらう機会がある方が いのでは （40 代女性）
法が一 市民に知られていない、つまり広報不 だと思います(70 代男性)
いていることが難しくてよくわかりませんでした（20 代女性）

性別がある以上、　てが平等にはならない。自ずと性による分担は自　にある。 他の国がそうだといって真　ることはない。わが国の文化や風習を基　に　自のものを　する。 法や　、条例で大まかな　組みをつくる。あとは地域や家庭の　力によって　成　する。 伝統的な文化がなお　りにされており、男女平等と同時に「心」の教育を　行して充実　させなければならない。 わが町は、議員や職員をもっと減らし、市民サービスをある　度　ルを下　、市民の　負担(　)を少なくする　力を求める。(80 代男性)
設　の意味がよくわかりません。　も　的なものばかりで答えようがない(30 代男性)
・　に対する項目立てが　でないと思う ・　2　を一番前に置き、アン　ートの趣　を明　にす　きだったのではないか　と思う ・　に対する回答の数を限定せ　るを得ないとは思うが、　的な結　(　しい結　)を得てしまい、アン　ートの意味がなくならないか　と思う。 ・　2　は　の項目が「どちらが　い　」ではないと思う。(「その他」で、　ントや考え方も　わない　もどうかと思う)(50 代男性)
なにをもって平等と定　するのですか　現状がとても差別的だと認めているということですか　男女ではなく、一人の人として認め、一　に進めていくことの方が大　だと思います。これができていないから、いじめがなくならないと思ってしまいます。とこ　で、　が　一　をまた　ような　イア　トはいただけないです　。作ればいいやってな感じが伝わってきます。このアン　ートが年度末の　化のためではない事を　します(40 代男性)
今回のアン　ートは、市民として言いようのない　が　さを感じる。そもそも男女平等な社会はどういうものか一定の定　さえないのにあなたはどう考えるか、ときかれても答えようがない。たとえば　々交　でやっている人間に、　経済社会といういいものがくる、　について意見を言えといわれても無理だ。このアン　ートは　が　として、答えにくい。　も家庭内における男女の役割分担と社会的な男女不平等は別　と　の中では分かっていても、きちんと　きして　じる自　はない。仕事から退いて家庭生活中心ならなおさらかと思う。役所が家庭内の　ーバスな　に無　に　み　んできたという感覚もある。そもそも行政の　動する啓　・教育活動のような上から　し付ける改革は、市民感覚からずれる。市民から　き上がってきたものではないからだ。こんな活動をやっていますという報告　としては　があっていいかもしれないが、　は　わしい。　しい　分別ですら　み　めず　している高齢者家庭が増えている地域で、男女平等社会の　一等は時間と経費の無　であ　う。また実社会の経　のない学生に世の不平等を　いても、　ンと来ないだ　う。実社会で多少　労した者からみると、最も男女平等が進んでいる職場は公務員だ。だから、　まれた立場の公務員からどれだけ　身になった提　ができるのだ　うかと思う。今回のアン　ートで一　社会の男女不平等についてまず知　う、という意図も見え　れするが、むし　役所の社会に対する　強不　との感がある。　な　・　には退　でイ　つくのである。　は、男女不平等の　ースは経済力の差だと思っている。　格差あり、就職という機会の格差もある。低所得にあえ　子家庭なども最もたるものかと思う。だからまず、低所得者対策を考えてもらいたい。男女平等社会という　練された社会の実現のためには、所得の底上　が不　である。公務員の職場環境の男女平等意識が高いのは、職と所得が保　されているからではないだ　うか。　スト・　業の不　を　えて　な環境で働か　るを得ない者に、男女平等も　もないのである(40 代女性)

・・・・・・・・・・　Ⅳ. 資　料　・・・・・・・・・・

アンケート票

『男女平等参画に関する市民意識調査』　ご協力のお願い

市民の皆様には、日頃から市政に対しご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

北広島市では、男女が共に家庭や社会のあらゆる分野に平等に参画する社会を実現するため、「きたひろしま男女平等参画プラン」（平成 14 年度～平成 22 年度）を策定し、各種施策を推進しています。

この調査は、男女の役割や平等意識などについて、日頃皆様が感じられていることをお伺いして、平成23年度からの新しい推進計画を策定するための基礎資料とするため、市内にお住まいの20歳以上の男女1,000人の方を無作為に選ばせていただき実施するものです。

お聞きしました事項は、統計データとして本調査のみに使用するもので、他の目的で使用したり、個人名や個人的な内容が明らかになることは一切ありません。

お手数ですが、調査の目的をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

平成２１年２月

北広島市長　上野正三

〔調査票の返送方法〕

ご記入いただきました調査票は、**３月１３日（金）**までに同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、投函していただきますようお願いいたします。

〔ご記入にあたってのお願い〕

1. この調査票は、ご本人の考えでお答えください。
2. 回答は、該当する項目を選び、その番号を○印で囲んでください。
3. 回答が「その他」に当てはまる場合は、お手数ですが（　）内に具体的にその内容をお書きください。
4. 調査票の内容について、不明な点がございましたら下記までお問い合わせください。

お問い合わせ先

北広島市役所市民部市民生活課男女平等参画担当
TEL011-372-3311.内線 716　FAX372-6188

平成20年度

男女平等参画に関する市民意識調査

質問ごとに用意している回答の中から、あなたの考えにあてはまる番号を選んで○印をつけてください。なお、「その他」に当てはまる場合は、お手数ですが（　）内に具体的にその内容をお書きください。

Ⅰ　最初に、あなた自身のことについてお聞きします。（あてはまる番号に○印をつけてください。）

① あなたの性別は	１　男性　　２　女性	
② あなたの年齢は	１　20代　２　30代　３　40代　４　50代 ５　60代　６　70代　７　80代以上	
③ あなたのお住まいは	１　東部地区　２　大曲地区　３　西の里地区 ４　西部地区　５　北広島団地地区	
④ あなたの職業は	１　自営業	ａ　農林漁業　ｂ　商工サービス業 ｃ　自由業（弁護士・開業医・税理士等）
	２　会社員等	ａ　会社員、団体職員 ｂ　公務員等 ｃ　パート・アルバイト ｄ　その他
	３　その他	ａ　家事専業 ｂ　学生 ｃ　無職 ｄ　その他（　　）
⑤ 現在、あなたは	１　未婚　　２　既婚	
⑥ 共働き（パートも含む）ですか	１　はい　　２　いいえ ３　その他（　　）	
⑦ お子さんはいらっしゃいますか	１　いる　　２　いない	

Ⅱ　男女平等についてお聞きします。

問１　あなたは、現在の社会で男女が平等だと思いますか。下の項目ごとに「１ 男性が優遇されている、２ 平等、３ 女性が優遇されている、４ わからない」の中からそれぞれあてはまる番号に○印をつけてください。

１	家庭生活の中で	・・・・・・・・・・・・・・・ 《 １・２・３・４ 》
２	職場の中で	・・・・・・・・・・・・・・・ 《 １・２・３・４ 》
３	学校教育の場で	・・・・・・・・・・・・・・・ 《 １・２・３・４ 》
４	政治の場で	・・・・・・・・・・・・・・・ 《 １・２・３・４ 》
５	法律や制度上で	・・・・・・・・・・・・・・・ 《 １・２・３・４ 》
６	社会通念・慣習で	・・・・・・・・・・・・・・・ 《 １・２・３・４ 》
７	社会全体で	・・・・・・・・・・・・・・・ 《 １・２・３・４ 》

問２　あなたは「男は仕事、女は家庭」という考え方をどう思いますか。あてはまるものに〇印をつけてください。

１　同感する　　２　同感しない　　３　その他（　　）

問３−①　結婚すると夫婦どちらか一方の姓（名字）を名乗ることになっています。あなたは結婚により、自分の姓が変わることをどう思いますか。あてはまるものに〇印をつけてください。

１　変わってもかまわない　　２　変わりたくないと思う
３　その他（　　）

問３−②　あなたは、夫婦が希望すれば、それぞれ結婚前の姓を名乗ることができる「夫婦別姓」の制度の導入に、賛成ですか、反対ですか。あてはまるものに〇印をつけてください。

１　賛成　　２　どちらかと言えば賛成　　３どちらかと言えば反対
４　反対　　５　わからない

Ⅲ　育児についてお聞きします。

問４　あなたが「少子化」の理由と考えるものを、次の中から３つまで選んで〇印をつけてください。

１　子育てと仕事の両立が難しいから
２　自分の生きがいや趣味を優先したいと考える人が増えたから
３　子育てする費用の負担が大きいから
４　育児は大変だと考える人が増えたから
５　保育制度や支援が十分ではないから
６　男女の初婚年齢が高くなり晩婚化が進んでいるから
７　子どもの将来に夢が持てないから
８　その他（　　）

問５　あなたは、出産・育児の環境づくりとして、どのような施策が必要だと思いますか。次の中からあてはまるものを３つまで選んで〇印をつけてください。

１　子どもの出産・育児手当などの充実
２　育児支援のネットワークの充実・整備
３　育児に男女ともに参加するような社会全体の意識改革
４　保育所に子どもを預けたい人の希望にかなうような環境整備
５　育児休業中の身分や所得保障などの制度の拡充
６　保育時間の延長や、産休明けに利用できる保育制度・施設の充実

７　ボランティア活動や生涯学習、冠婚葬祭、療養などのときに、子どもを一時的に保育してくれる施設・制度の充実
８　出産・育児の楽しさや、すばらしさのＰＲ
９　その他（　　）

問６　あなたは、「母親が子どもを３歳くらいまでは家庭で育てた方がよい」という考え方をどう思いますか。あてはまるものに○印をつけてください。

１　そう思う　　２　そうは思わない　　３　その他（　　）

問７　あなたは、子どもの育て方について、「男らしく」「女らしく」と区別することについてどう思いますか。あてはまるものに○印をつけてください。

１　区別して育てる方がよい　　２　区別しない方がよい
３　その他（　　）

Ⅳ　職業についてお聞きします。

問８　あなたは、女性が職業を持つことについてどう思いますか。次の中からあてはまるものに○印をつけてください。

１　結婚や出産にかかわりなく働きつづける方がよい
２　子どもができるまで働き、子育てが終わると再び働く方がよい
３　子どもができるまで働き、子どもができた後は家庭に入る方がよい
４　結婚するまでは働き、結婚した後は家庭に入る方がよい
５　女性は職業を持たない方がよい
６　その他（　　）

問９-①　あなたは、今の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。
次の中からあてはまるものに○印をつけてください。

１　働きやすい　　２　おおむね働きやすい　　３　あまり働きやすくない
４　働きやすくない　　５　わからない

※１・２・５に○印の方は⇒問 10 へ
※３・４に○印の方は　　⇒問９-②へ

問９-②　問９-①で３，４を選んだ方にお聞きします。女性が「働きやすくない」大きな原因と思うものを、次の中から５つまで選んで○印をつけてください。

１　能力を発揮する場が少ない

２　能力を正当に評価されない
３　家族の理解が得られない
４　結婚、出産退職の慣行がある
５　家事・育児と仕事の両立が難しい
６　保育制度や施設が十分ではない
７　育児休業がとれない、育児休業制度が整っていない
８　性別によって昇進・給与・教育訓練に差がある
９　性別によって職場配置など仕事に偏りがある
10　職種には関わらず、お茶汲みなどの雑用をさせられる
11　「男は仕事、女は家庭」という社会通念が強い
12　転勤による別居が難しい
13　育児退職後の再就職（正職員）が難しい
14　家族の介護を担わされる
15　その他（　　）

Ⅴ　人権についてお聞きします。

問10　あなたが、「人権が尊重されていない」と感じるのはどのようなことがらですか。次の中からあてはまるものを３つまで選んで○印をつけてください。

１　婚姻・戸籍や社会通念上の制度、慣習からくる差別
２　性別を理由とした、伝統行事などへの参加制限
３　売春・買春（援助交際を含む）や風俗営業
４　配偶者・恋人からの身体的・精神的な暴力（ドメスティック・バイオレンス）
５　職場におけるセクシュアル・ハラスメント（セクハラ・性的いやがらせ）
６　ヌード写真などを掲載した雑誌や広告
７　女性の容ぼうを競うミス・コンテスト
８　ストーカー（つきまとい行為）、痴漢行為
９　その他（　　）

問11　配偶者・恋人から継続的に身体的・精神的な暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けることが、大きな問題になっています。次の中からあてはまるものに○印をつけてください。

１　自分が暴力を受けたことがある
２　配偶者・恋人に継続的に暴力を振るったことがある
３　身近に暴力を受けた人がいる
４　テレビや新聞などで話題になっていることは知っている
５　見聞きしたことはない

問12-①　セクシュアル・ハラスメント（セクハラ・性的いやがらせ）についてお聞きします。次の中からあてはまるものに○印をつけてください。

1　セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある
2　セクシュアル・ハラスメントを行なったことがある
3　身近にセクシュアル・ハラスメントを受けた人がいる
4　テレビや新聞などで問題になっていることは知っている
5　見聞きしたことはない

※１に○印の方は⇒問 12-②へ
※２・３・４・５に○印の方は⇒問 13 へ

問12-②　問 12-①で「１　セクシュアル・ハラスメント（セクハラ・性的いやがらせ）を受けたことがある」と答えた方にお聞きします。そのとき、あなたはどうしましたか。あてはまるものに○印をつけてください。

1　セクシュアル・ハラスメントを行なった相手に抗議した
2　上司・先生や、職場・学校の相談窓口に相談した
3　家族や身近な人、友人などに相談した
4　人権相談所・公的機関などに相談した
5　警察に訴えた
6　自分の世間体や今後の不利益のことも考えると、何もできなかった
7　相手の立場などを考えると、何もできなかった
8　その他（　　）

問13　配偶者・恋人から継続的に身体的・精神的な暴力（ドメスティック・バイオレンス）、セクシュアル・ハラスメント（セクハラ・性的いやがらせ）、ストーカー行為（つきまとい行為）、売買春、性犯罪などの暴力防止、被害者支援への取組みとして、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものすべてに○印をつけてください。

1　暴力防止のための啓発
2　家庭・学校における男女平等や人権についての教育の充実
3　職場における男女平等意識の徹底
4　被害者が援助を求めやすくするための情報提供の充実
5　専門知識を持った者による相談体制の整備
6　被害者の一時保護などを行う「シェルター」の設置
7　被害者の再就職などの自立支援
8　暴力をふるう加害者の相談窓口を設けるなど相談体制の充実
9　その他（　　）
10　わからない

Ⅵ　男女平等参画についてお聞きします

問14　あなたは、地域活動での男女共同参画について、どのように思いますか。次の中からあてはまるものすべてに○印をつけてください。

1　男性の参加が少ない
2　女性の参加が少ない
3　男性が女性を対等なパートナーとして見ていない
4　女性が表に出るべきでないという雰囲気がある
5　女性には発言の機会が与えられなかったり、意見が聞き入れられたりしない
6　女性が役職に就きたがらない
7　団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある
8　活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある
9　特にない
10　その他（　　）

問15　あなたは、現在、女性の意見が政治や行政にどの程度反映されていると思いますか。次の中からあてはまるものに○印をつけてください。

1　十分反映されている　　2　ある程度反映されている
3　あまり反映されていない　　4　ほとんど反映されていない
5　わからない

問16　あなたは、男女平等参画社会を実現するために、**男性**はどのようにすることが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものを３つまで選んで○印をつけてください。

1　女性も社会の組織を支える一員であるという認識を持つ
2　職場で、女性の能力や考え方を尊重する
3　家事や育児などに参加することに対する抵抗感をなくす
4　仕事中心から、家庭生活とのバランスのとれた生き方に変える
5　女性が働きつづけられるよう、家事、子育て、教育を分担する
6　従来、女性が就く職種だと考えられていた仕事にも進出する
7　その他（　　）

問17　あなたは、男女平等参画社会を実現するために、**女性**はどのようにすることが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものを３つまで選んで○印をつけてください。

1　社会や組織を支える一員としての自覚を持つ
2　自分の意見や希望を様々な場で積極的に発言する

３　政治・行政や企業などにおける方針決定の場にも進出する
４　技能や資格などを習得・取得し、能力の向上を図る
５　従来、男性が就く職種だと考えられていた仕事にも進出する
６　結婚・出産後も仕事を続け、経済力をつける
７　夫と家事、子育てや教育などの分担について話し合う
８　その他（　　）

問18　次の男女平等参画に関する言葉のうち、あなたがこれまでに見たり聞いたりしたことがあるものすべてに○印をつけてください。

１　男女共同参画社会基本法
２　女子差別撤廃条約
３　配偶者暴力防止法
４　ジェンダー（社会的・文化的につくられた性差別）
５　男女雇用機会均等法
６　固定的性別役割分担意識
７　ポジティブ・アクション（積極的改善措置）
８　アンペイド・ワーク（無償労働・特に家事専業者）
９　ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
10　きたひろしま男女平等参画プラン
11　その他（　　）

問19　あなたは、男女平等参画社会を実現するために、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中からあてはまるものを５つまで選んで○印をつけてください。

１　男女平等参画推進を専門的に担当する組織や体制を充実させる
２　男女平等参画について学ぶための学習講座などを行なう
３　男女平等参画社会作り施策への提言など、市民参加の機会を設ける
４　行政の審議会など、政策を決定する場に女性を積極的に登用する
５　学校教育や生涯学習の場で男女平等についての学習を充実させる
６　男女平等参画を進めるためのリーダーを養成する
７　保育の施設・サービスや地域の子育て環境を整備する
８　高齢者の介護施設・サービスを充実する
９　企業などに雇用における男女平等参画への啓発を進める
10　女性の就労を支援する情報提供や職業訓練を進める
11　男女平等参画を進めるための拠点施設を設置する
12　男女平等参画意識を高めるための広報や啓発活動を充実させる
13　男女平等参画のための条例を作り、充実した政策を進める
14　その他（　　）

問20　「男女共同参画社会基本法」では、男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会を『男女共同参画社会』と規定しています。
市では、法律で使用している「男女共同参画」ではなく、現在の社会においては男女がまだ平等でないとの考え方から、あえて「男女平等参画」のことばを使用していますが、あなたはどう思いますか。次の中からあてはまるものに〇印をつけてください。

１　「共同」より「平等」の方が分かりやすい
２　どちらかというと「共同」より「平等」の方が分かりやすい
３　どちらでも良い
４　どちらかというと「平等」より「共同」の方が分かりやすい
５　「平等」より「共同」の方が分かりやすい

男女平等参画のあり方についてご意見・ご提案などがありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力いただき、誠にありがとうございました。大変お手数ですが、同封の返信用封筒に入れて、３月１３日（金）までに投函してくださいますようお願いいたします。

男女平等参画市民意識調査結果報告書
発行：　平成 21 年 6 月

北広島市　市民部市民生活課男女平等参画担当
〒061-1192　北広島市中央 4 丁目 2 番地 1
TEL：011-372-3311　　（内線 716）
FAX：011-372-6188
E-mail：　shimins@city.kitahiroshima.lg.jp